

第七條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

五二六

●供託法

三十二年二月
法律第十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル供託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

供託法

第一條 法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ金庫ニ於テ之ヲ保管ス

第二條 金庫ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ大藏大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之

ヲ差出タスコトヲ要ス

第三條 金庫ハ金錢ノ供託ヲ受ケタル翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ大藏大臣カ定メタル利息ヲ拂フコトヲ要

ス

第四條 金庫ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受

取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者

ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者ヲ

指定スルコトヲ得

倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限り之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第六條 倉庫營業者ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添

ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ

得

第八條 供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ之ヲ還付ス

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト、供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其原因カ消滅シタルコト
ヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セザル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無効トス

第十條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託所ニ其給付ヲ爲シ又ハ供託者ノ書面

若クハ裁判ニ依リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附則

第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコト

ヲ要ス

第十三條 第四條、第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 明治二十三年勅令第四百十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●供託物取扱規程

三十二年三月
大令第六號

改正
三三年大令二八號、三四
年一七號、三六年二六號

供託物取扱規程左ノ通相定メ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

供託物取扱規程

第一條 明治三十二年法律第十五號供託法ニ從ヒ金庫ニ於テ保管スル供託物ハ此ノ規程ニ依テ取扱フモノト

第二條 此ノ規程ニ於テ供託物ト稱スルハ法律命令中供託ヲ明記セラレタル場合ニ於テ保管スヘキ金錢、有

價證券ヲ謂フ

第三條 供託ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ明示シタル第一號書式ノ供託書ニ通テ作り之ニ供託物ヲ添ヘ金

庫ニ提出スヘシ

第一 供託者ノ住所氏名官吏公吏ノ公務上取扱フ場合ハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名但シ代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名

第二 供託セントスル金額

有價證券ハ其ノ種類記號番號券面額枚數但シ全額拂込未済ノモノハ券面額ノ左側ニ其ノ拂込済額ヲ記入スルコトヲ要ス

第三 供託ノ原因(事實ヲ詳記スルノ外利害關係係人ノ法律上ノ位置及氏名)

第四 供託スヘキ法令ノ條項

第五 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ法律上ノ位置(質權者、抵當權者等特ニ其ノ名稱ヲ記スルコトヲ要ス)及氏名住所官廳ナレハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名

第六 供託物ヲ受取ル可キ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物

第七 官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託スルトキハ其ノ官廳名若シ訴訟ニ關スルトキハ其ノ件名及裁判所名

第四條 金庫ニ於テ前條ノ供託ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ要件ノ具備シタルコトヲ認メタル後供託書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ供託者ニ交付スヘシ

第五條 供託物ハ郵便ニ依リ寄託スルコトヲ得但シ供託物カ金錢ナルトキハ供託者ノ危險負擔ヲ以テ銀行ノ送金手形若クハ郵便爲替券等ヲ以テ供託書ト共ニ金庫ニ送付スルコトヲ得

第六條 金庫ニ於テ前條ニ依リ送金手形若クハ爲替券等ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ交換シタル後第四條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲スモノトス

第七條 供託物ヲ受取ルヘキ者ニ於テ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ノ受取方ヲ請求セントスルトキハ第二號書式ノ請求書ニ通テ作リテ金庫ヘ提出スヘシ

保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者ニ於テ前項ノ請求ニ依リ金庫ニ保管セラレタル其ノ利息又ハ配當金ヲ受取ラントスル者ハ第八條ノ附屬供託物受領證ニ式ノ如ク領收ノ與書ヲ爲シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

保證金ニ代ヘテ利札付有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ本條第二項ノ手續ニ依ラス直チニ其ノ利札ヲ受取ルコトヲ得但シ此場合ハ第三號書式ノ領收證書ヲ作リ利札ノ交付ヲ金庫ニ請求スヘシ

第八條 金庫ニ於テ前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ償還金ハ代供託物利息又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管シ請求書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ請求者ニ交付スヘシ

前條第三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ附屬供託物ヲ交付シ第三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ利札ヲ交付スヘシ

第九條 供託法第八條ニ規定スル供託者ノ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ作リ第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ト共ニ金庫ヘ提出ス可シ但シ全部ノ拂渡ヲ要スルトキハ其ノ受領證ニ式ノ如ク與書ヲ爲シ幾分ノ拂渡ヲ要スルトキハ第五號書式ノ領收證書ヲ提出スルコトヲ要ス

第一 供託者カ指定シタル者ハ其ノ供託通知書

第二 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

第三 裁判ニ依リテ定マリタル者ハ執行力アル判決ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

前項ノ拂渡ヲ請求スル者カ反對給付ヲ爲スヘキ者ナルトキハ其ノ給付ヲ爲シタル金錢、證券若クハ物件ノ數量等ヲ表示シタル左ニ掲クル者ノ證明書ヲ仍ホ提出スルコトヲ要ス

第一 供託所ニ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ金庫又ハ倉庫營業者ノ作リタル供託受領ヲ證スル書類

第二 反對給付ヲ受クヘキ者ニ給付ヲ爲シタルトキハ供託者ノ書面又ハ判決ノ正本

第十條 供託者ニ於テ供託物ノ取戻ヲ爲サントスルトキハ前條第一項ノ手續ニ依リ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ヲ提出シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

第一 債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ表示シタル債權者ノ書面
 第二 供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ未確定ナル場合ニ於テハ其ノ判決書ノ正本
 第三 第一第二ノ場合ニ於テ供託カ質權又ハ抵當權ノ消滅ニ關スルモノナルトキハ其ノ質權又ハ抵當權ノ消滅セサリシコトヲ證明シ得ヘキ書類
 第四 供託ノ原因カ消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テシ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書類又ハ判決ノ正本若シ官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託シタルモノナルトキハ其ノ官廳又ハ裁判所ノ證明但シ官吏公吏ノ公務上取扱フモノナルトキハ其ノ事由ヲ表示シタル書面
 第十一條 前二條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類其ノ他原由ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スルコト能ハサル正當ノ理由アル場合ニ於テハ其書面ニ代ヘテ金庫ノ承諾ヲ得タル二名以上ノ保證人ノ連署ヲ以テ其ノ供託物拂戻ノ爲メ政府ニ損害ヲ生シタルトキハ賠償ノ責ニ任スル旨記載シタル書面ヲ提出スルコトヲ得
 第十二條 金庫ニ於テ第九條第十條ニ依レル拂渡請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ請求ノ理由アルコトヲ確認シタル後供託物ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ幾分ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク其ノ拂渡額ヲ記入シ請求者ニ返還スヘシ
 第十三條 官廳又ハ裁判所ニ於テ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ノ請求書ニ第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ金庫ニ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂渡證書ヲ受取人ニ交付スヘシ
 受取人ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク受領證シ供託物ノ拂渡ヲ請求スヘシ
 第十四條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂渡證書ト引換ニ供託物ヲ受取人ニ交付スヘシ但シ其ノ拂渡カ幾分ニ係ルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク拂渡額ヲ記入シ請求官廳又ハ裁判所ヘ返還スヘシ
 第十五條 供託金ノ利息ハ其ノ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ノ受取人ト利息受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ
 營業ノ保證トシテ供託シタル元金ノ利息ハ毎年一月七月ノ二期ニ於テ前月迄ニ生シタル金額ヲ計算シ供託

者又ハ之ヲ受取ルヘキ權利アル者ノ請求ニ依リ拂渡ヲ爲スヘシ
 第十六條 前條第一項ニ依ル利息ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ第八號一書式ノ請求書ヲ又第二項ニ依ル利息ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ同號二書式ノ請求書ヲ金庫ヘ提出スヘシ
 第十七條 金庫ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利息金額ヲ計算シ式ノ如ク之ヲ記入シ中央金庫ニ在テハ日本銀行ヘ本支金庫ニ在テハ日本銀行ノ支店、代理店ヘ之ヲ回付スヘシ
 日本銀行又ハ其ノ支店、代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ利息受取人ヲシテ式ノ如ク受領證セシメ其ノ現金ヲ交付スヘシ

附則

第十八條 此ノ規程施行前ニ爲シタル供託物ヲ受取ルヘキ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル供託者ハ其ノ金錢證券又ハ物件ノ數量等ヲ金庫ニ通知スルコトヲ要ス
 第十九條 明治二十六年當省令第二十一號供託物取扱規程其ノ他此ノ規程ニ抵觸スルモノハ此ノ規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號書式 (用紙寸法美濃判)

紙數二枚以上三及フトキハ 契印スヘシ以下之ニ同シ

供託書

(金錢ト有價證券トハ各 別ニ作成スルヲ要ス)

府縣郡市町村番地

供託者 何

某

(第三者ニ於テ供託ヲ爲ストキハ 供託者第三者ト記入スヘシ)

一金何圓也

又ハ

一何々公債證券額面何圓也

全額拂込未済ノモノハ其ノ 拂込額ヲ左側ニ記入スルコトヲ要ス以下之ニ同シ 何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

但何年何月又ハ何期渡以降利札付(以下之ニ同シ)

又ハ
一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

同
記號番號枚數記載方前ニ同シ

又ハ
一何 々

同
前ニ同シ

供託ノ原因

供託スヘキ法令ノ條項

受供託物ヲ取ルヘキ者ノ指定

反對給付ノ目的物

官廳名又ハ訴訟事件名及裁判所名

右供託ス

年 月 日

右

何金庫宛

何
某團

(受領書式)

第何號

右受領ス

年 月 日

何
金庫宛

(與書ノ式)

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

受取人

何
某團

何金庫宛

(内渡書式)

内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何 々

同 前ニ同シ

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番迄何枚

同 記號番號枚數記載方前ニ同シ

(種類多數ナルトキハ別ニ内渡書ヲ添付スルモ妨ケナシ此場合ニハ本文高書ノ一箇所ヘ公債證書其他額面何圓也別紙内渡書ノ通ト記入シ内渡書ト契印スヘシ)

右金額(又ハ有價證券)何年何月何日内渡濟

何
金庫宛

第二號書式

請求書

一金何圓也

(代供託物ト附屬供託物トハ各別ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

(シ其殘額ヲ記載スルモノトス) 何々公債證書(又ハ何々銀行株券)又ハ何會社株券(何圓何年何月(又ハ何期)渡利息(又ハ配當金)(又ハ何年何月償還金)何年何月何日第何號供託受領證ノ分

前書金額御受取相成度(又ハ別紙委任狀相添)請求候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

何
某團

何金庫宛

(受領ノ書式)

第何號

右代供託物(又ハ附屬供託物)トシテ受領ス

年 月 日

(與書ノ式)

前書ノ金額正ニ領收候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

何 金 庫 宛

何 金 庫 宛

(内渡ノ書式)

表書金額ノ内

一金何圓也

右金額何年何月何日内渡濟

(受領證ノ餘白ニ記入シ難キトキハ摺紙ヲナスヘシ)

何 金 庫 宛

第三號書式

利札領收證書

一利札券面額何圓也

何 枚

但何年何月何日第何號供託受領證ノ何公債證書又ハ何銀行者クハ何會社債券額面何圓ニ對スル何年何月又ハ何期渡ノ分

右領收候也

府縣郡市町村番地

供託者 何 某 圓

第四號書式

供託物拂渡請求書

一 一金何圓也

又ハ

一 何々公債證書額面何圓也

又ハ

一 何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一 何 々

前書ノ金額(又ハ有價證券)供託者ノ指定ニ依リ又ハ何年法律勅令何省令第何號ニ依リ若クハ裁判ニ依リ 供託者ニ於テ取戻ヲナサントスル場合ハ 何々ノ事由ニ依リ云々ト記載スルコト 拂渡相受度別紙證明書並ニ供託受領證相添請求候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

何 金 庫 宛

何 某 圓

(供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

(幾分ノトキハ請求額ノ上部ニ何年何月何日第何號供託受領證ノ内ト用書スヘシ)

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

同 記號番號枚數記載方

前ニ同シ

同 前ニ同シ

第五號書式

領收證書

(供託受領證一葉毎ニ領收證一書ヲ作成スルコトヲ要ス)

何年何月何日第何號供託受領證ノ内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年 月 日

何金庫宛

府縣郡市町村番地
受取人 何

某團

第六號書式

請求書

(供託受領證一葉毎ニ請求一書ヲ作成スルコトヲ要ス)

何年何月何日第何號受領證

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

府縣郡市町村番地
供託者 何

某

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

内

金何圓也

又ハ

何々公債證書額面何圓也

又ハ

何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

何々

同 記號番號枚數記載方

前ニ同シ

同 前ニ同シ

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

同 記號番號枚數記載方

前ニ同シ

同 前ニ同シ

府縣郡市町村番地

受取人

何

某

右ハ何々ノ事由ニ依リ内譯ノ通拂渡證發行候ニ付分割拂渡スコトヲ要ス依テ別紙供託受領證相添請求候也

年 月 日

官廳又ハ裁判所名圖

官 氏

名圖

何金庫宛

第七號書式

拂渡證書

府縣郡市町村番地

供託者 何

某

何年何月何日第何號受領證ノ内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

右金額(又ハ有價證券)府縣郡市町村番地何某へ拂渡スコトヲ要ス

年 月 日

官廳又ハ裁判所名圖

官 氏 名圖

何金庫宛

(奥書ノ式)

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

受取人 何

某圖

何金庫宛

第八號一書式

利息請求書

何年何月何日第何號供託受領證ノ金何圓ニ對スル利息仕拂相成度請求候也

府縣郡市町村番地

受取人 何

某圖

年 月 日

何金庫宛

(利息記入式)

一金何圓也 利子額(利率年何分何厘)

内

金何圓也

利付額何圓ニ對スル
何年何月ヨリ何年何月マテ

金何圓也

何々

右之通ニ候也

年 月 日

何 金 庫 圖

(現金領收ノ式)

前書之金額正ニ領收候也

年 月 日

受取人

何 某圖

日本銀行本支店宛
又ハ其代理店宛

第八號二書式

營業保證金ニ係ル供託金利息請求書

何年何月何日第何號供託金何圓ニ對スル何年何月ヨリ何年何月ニ至ル利息仕拂相成度
請求候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

第六輯 會計 第九章 保管供託

(利息記入證明式)		何金庫宛	受取人	何	五四〇
一金何圓也					
内					
金何圓也		自何年何月	利子額(利率年何分何厘)		
右ノ通ニ候也		至何年何月	何箇月分		
年 月 日					
(現金領收ノ式)					
前書ノ金額正ニ領收候也					
年 月 日					
日本銀行本支店宛			受取人	何	某印
又ハ其代理店宛					

●供託金利息

三十二年三月
大告第九號

供託法第三條ニ於ケル供託金ノ利息ハ一箇年三步六厘ト定ム

第十章 會計検査

●會計検査院法

二十二年五月
法律第十五號

改正 二九年法律九〇號
三三年八一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計検査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計検査院法

第一章 組織

- 第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス
- 第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官十二員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員検査官補二員及屬若干員ヲ置ク
- 第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ検査官書記官及検査官補ハ奏任トシ屬ハ判任トス
- 第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス
- 第五條 院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得
- 第六條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌ス
- 第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
- 會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セララルコトナシ

會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ

議長トス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

- 一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ
 - 二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ
 - 三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ
 - 四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ
 - 五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ
- 第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 職 權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス
第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

- 一 總決算
 - 二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算
 - 三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算
 - 四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算
- 第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ
- 一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ
 - 二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ
前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得
第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラヌト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ因ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコト

ヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●會計検査院事務章程

三十二年十二月 勅令第四百五十七號

朕會計検査院事務章程ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計検査院事務章程

第一條 會計検査院ニ第一部、第二部、第三部ヲ設ケ各部ニ課ヲ置キ検査ノ事務ヲ分掌セシム

第二條 會計検査院ニ院長官房ヲ置ク

第三條 會計検査院ノ會議ハ會計検査官ヲ以テ組織ス

總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第四條 總會議ハ會計検査官現員ノ三分ノ二以上部會議ハ其ノ部ノ會計検査官現員ノ半數以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

出席會計検査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ 會議ニ於テハ三名部會議ニ於テハ一名ヲ限リ検査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得

第五條 總會議及部會議ハ會計検査官、委員又ハ検査官補ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第六條 會計検査官總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要スル事件ニ付議案ヲ提出セムトスルトキハ其ノ案ヲ具ヘ理由ヲ附シ總會議ノ議決ヲ要スルモノハ院長ニ部會議ノ議決ヲ要スルモノハ部長ニ之ヲ提出スヘシ

委員ヲ設ケタル場合ニ於テ其ノ委員ヨリ提出スル議案ニ付テ亦同シ

第七條 會計検査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ検査シ又ハ其ノ檢定若ハ判決ニ與ルコトヲ得ス

第八條 院長ハ所部ノ職員ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ自ラ之ヲ行フ

第九條 院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部職員ノ敘位敘勳ヲ上奏シ又ハ増俸賞與ヲ行フ

第十條 院長ハ會計検査院全般ニ關スル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理セシムル爲メ會計検査院高等官中ヨリ委員ヲ設クルコトヲ得

第十一條 左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

- 一 各部ノ分課ヲ定ムルコト
- 二 各部課主管ノ事務及職員ノ配置ヲ定ムルコト
- 三 各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノヲ處分スルコト
- 四 検査官補ニ總會議出席ヲ命スルコト
- 五 所部ノ職員ニ出張ヲ命スルコト
- 六 議事ニ關シ細則ヲ定ムルコト
- 七 部會議ノ議決スヘキ事項ヲ定ムルコト
- 八 行務監督規程及其ノ他ノ行政事務ニ關スル諸規程ヲ定ムルコト

第十二條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニ付主任部長及検査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若
其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ

總會議又ハ部會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限リ院長ハ文章ノ訂正ヲ爲スコトヲ得
第十三條 院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ再議
ニ付スヘシ

再議ノ議決ニ對シテハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

院長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ其ノ議決書ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之
ヲ總會議ニ付スヘシ

第十四條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシ
ムルコトヲ得

第十五條 左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

一 其ノ名ヲ以テ審理書ヲ發スルコト

二 検査官補ニ部會議出席ヲ命スルコト

三 部員ヲシテ其ノ部主管ノ事務ニ付一時相互ニ幫助セシムルコト

四 部員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告スルコト

第十六條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ヲ審查シ其ノ總會議若ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノ又ハ院長ニ提
出スルヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ處分スヘシ

其ノ部會議ニ付シタルモノハ總テ之ヲ院長ニ提出スヘシ

第十七條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニ付主任検査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若其ノ同
意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

部會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限リ部長ハ文章ヲ訂正スルコトヲ得

第十八條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ總會議
ニ提出スヘシ

第十九條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシ
ムルコトヲ得

第二十條 検査官ハ各課ノ長トナリ課務ヲ掌理ス

第二十一條 検査官ハ検査ノ執行ニ因リ檢定、判決、審理等ニ關スル文書ヲ調製シ之ヲ部長ニ提出ス

第二十二條 検査官補ハ各課ニ分屬シ課長ヲ助ケ又ハ院長官房若クハ各部ニ分屬シ審議立案ヲ掌ル

第二十三條 検査官補ハ検査ノ事項ニ關シ意見アル場合ニ於テ總會議又ハ部會議ニ議案ヲ提出セムトスルト
キハ院長又ハ當該部長ノ承認ヲ經ヘシ

第二十四條 書記官ハ院長官房ニ屬シ庶務ヲ掌ル

第二十五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ検査ノ事務又ハ庶務ニ従事ス

速記技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ速記ノ事務ニ従事ス

第二十六條 會計検査院ハ行務年度ヲ定メ検査ノ事務ヲ執行ス

第二十七條 會計検査院ハ検査ノ事項ニ付當該官吏ニ對シテハ審理書ヲ發シ國務大臣ニ對シテハ質問書又ハ
注意書ヲ發スルコトヲ得

第二十八條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算正當ナリト判決シタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付シ
正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ對シテ處分要求書ヲ發スヘシ

會計検査院ハ出納官吏其ノ負擔スヘキ缺損金ノ辨償ヲ終ヘタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付ス
ヘシ

第二十九條 會計検査院ハ國ノ代表者ニ於テ出納官吏ニ對スル公訴附帶ノ私訴ヲ提起シタル事項ニ關シテハ
之ニ對スル通常又ハ特別裁判所ノ判決執行ノ結果ニ依リ其ノ検査判決ヲ行フヘシ

第三十條 會計検査院ハ第二十八條ノ處分要求書ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ事由ヲ検査成績書ニ載セテ上奏スヘシ

第三十一條 會計検査院ハ出納官吏ニ對シ再審ヲ行フ場合ニ於テハ前ニ該件ノ検査ヲ擔當セサリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ

第三十二條 會計検査院ハ出納官吏ノ請求ニ因リ再審ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ本屬長官ニ通知スヘシ

會計検査院ハ職權ヲ以テ再審ヲ行フ場合ニ於テハ本屬長官ヲ經由シテ其ノ旨ヲ當該出納官吏ニ通知スヘシ

第三十三條 會計検査院ハ左ノ場合ニ於テ本屬長官ヲシテ直ニ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

一 出納官吏其ノ保管スル現金ヲ亡失シタルトキ

二 各省大臣出納官吏ニ對シ辨償ヲ命シタルトキ

三 出納官吏ニ對スル公訴ニ附帶シテ國ノ代表者私訴ヲ提起シタルトキ

第三十四條 會計検査院ハ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期又ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

●收入證明規程

三十三年五月
會檢法第二號

改正

三十四年會檢法七號
三十五年五月號

收入證明規程左ノ通定ム

收入證明規程

第一條 會計規則又ハ各特別會計規則ニ依リ收入官吏ノ調製スヘキ收入計算書ハ別記書式ニ據ルヘシ

收入計算書ノ提出期限ハ年度經過後一箇月以内又交替ヲ爲シタルトキハ其交替後三十日以内トス

第二條 身元保證金ヲ納メタル分任收入官吏交替ノトキハ特ニ其收入計算書ヲ調製シ證明ヲ爲スコトヲ得但此場合ニ在リテハ主任收入官吏ヲ經由スヘシ

第三條 左ノ事項ハ收入計算書ノ備考ニ記載スヘシ

一 缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

二 會計規則第八十八條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其金額事由

三 金庫ニ拂込未済又ハ債主其他ニ拂渡未済ニ係ルモノアルトキハ其金額事由

四 右金額ニシテ後任官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其事由

第四條 收入計算書ニハ會計規則第九十三條ニ依レル檢定書ヲ添付スヘシ

第五條 證憑トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一 金庫ニ拂込ミタルモノ後任官吏ニ引繼キタルモノ又ハ債主其他ニ拂渡シタルモノハ各其領收證書

二 金庫ニ寄託シタルモノ又ハ供託シタルモノハ當該上官又ハ金庫ノ保證書

第六條 證憑書類ハ所屬年度ニ區分編纂シ其金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ

第七條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ收入計算書及證憑書類ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ

第八條 下検査書ハ收入計算書毎ニ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 收入計算書ト現金出納簿トノ符合及殘額現存ノ保證

二 事實ニ適合セスト認定シタル事項ノ金額事由

第九條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

附則

第十條 本規程ハ明治三十三年度分ヨリ施行ス

従前ノ各收入證明規程ハ明治三十二年分限リ廢止ス

(別記)

書式

明治何年度

收入計算書

一 計算書ヲ受授スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 一 計算書ノ用紙ハ摺沙引厚質美濃紙ニツ折テ用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ綴代ヲ存スヘシ
 一 計算書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ

證憑書何冊

何々

應名

備考
 ○分任收入官吏既證明ノモノタリトモ之ヲ本欄ニ記入シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ

摘要	前年度拂込未済額		本年度追加収済額		計	拂込済額		拂込未済額	
	圓	錢	圓	錢		圓	錢	圓	錢
租 稅									
何 年 度	0		0		0		0		0
何 年 度	0		0		0		0		0
計	0		0		0		0		0
用 稅 外 (租稅=同シ)									
何々特別會計 (租稅=同シ)									
合計	0		0		0		0		0
拂込未済額區分									
某所主任收入官吏官氏名									0
某所分任收入官吏官氏名									0
某所分任收入官吏官氏名									0
身元保證金									
主任收入官吏官氏名	0.00								
分任收入官吏官氏名	0.00								

明治何年度收入計算書證明候也

職官氏名印

會計検査院長宛

年 月 日

摘 要

何 年 度

何 年 度

計

持出未済額区分

其明主任收入官氏名

其所分任收入官氏名

其所分任收入官氏名

滞納處分金出納 (擔保品、收容貨物、無請求品賣却代金出納)

受 入		拂 出				拂 出 未済額	備 考
前年度持 出未済額	本年度受領額	計	貸入=持付額	貸出其他 =持取額	何 々		
0	0	0	0	0	0	0	○國稅徵收法又ハ海關稅稅滯納處分規則ニ依リ滯納處分ヲ爲シタル現金若クハ關稅法、砂糖消費稅法又ハ保稅倉庫法ニ依リ擔保品貨物等ノ賣却ヲ爲シタル現金ヲ出納シタルモノハ本欄 ヲ付スヘシ
0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	
							0 0 0

● 租稅外歲入徵收額證明規程

三十四年六月
會檢達第四號

改正

三十五年會檢達四號、五號
三十六年二號、三十九年五號

五五四

租稅外歲入徵收額證明規程左ノ通定ム

租稅外歲入徵收額證明規程

第一條 會計規則又ハ各特別會計規則ニ據リ歲入ヲ徵收スル官吏ノ調製スヘキ歲入徵收額計算書ハ第一號書式ニ據ルヘシ

歲入徵收額計算書ノ提出期限ハ翌年度五月三十一日マテトス但處分未了ノ者アルトキハ其事由ヲ會計検査院ニ報告シ七月十五日マテニ提出スヘシ

帝國及在韓國鐵道ニ於ケル歲入徵收計算書ハ第五號書式ニ據リ調製シ翌月十五日マテニ提出スヘシ

第二條 歲入徵收額計算書ニハ第二號乃至第四號書式ニ據リ調製シタル收入未濟額明細書地所貸下明細書貸付金明細書ヲ添付スヘシ

帝國及在韓國鐵道ニ於ケル最終徵收計算書ニハ前項明細書ノ外第六號書式ニ據リ調製シタル運輸收入明細書ヲ添付スヘシ

第三條 左ノ事項ハ歲入徵收額計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雜ニ涉ルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

一 缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

二 國庫移替ニ係ルモノアルトキハ其金額事由

三 調定若クハ確定ノ過不足ニ係ルモノアルトキハ其金額事由並追徴下戻ノ顛末

四 前年度調定不足額ヲ調定シ又ハ前年度收入未濟額ヲ收入シタルモノアルトキハ各其金額事由

五 印紙收入ノ延納貸下ニシテ納期ノ翌年度ニ屬スルモノアルトキハ其金額事由

六 督促手数料、國稅滯納處分費ノ引繼引受ヲ爲シタルモノアルトキハ各稅務署ニ區分シ其金額事由

七 金庫出納區域以外ノ金庫ニ納入セシメタルモノアルトキハ其金額及金庫名

第四條 證憑トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

一 物件ノ賣拂、貸下、製造、修繕其他ノ收入ニ關シテハ契約書、契約書ナキモノハ請求書、決議書類若シ

該書類中物件ノ品質同名稱ニシテ等級ア數量金額及事由ノ明記ナキモノハ之ヲ認ムヘキ書類ヲ添付スヘシ

前項ノ證憑書類ハ會計検査院ノ承認ヲ經テ他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之ヲ省略スルコトヲ得

二 葉煙草賣渡代ニシテ延納ヲ許可シタルモノハ其期限及擔保金額又賣渡代價定率ニ依ラサルモノハ其事

由、回送ニ係ルモノハ其回送費ヲ詳記シタル書類ヲ添付スヘシ

三 不納缺損ニ係ルモノアルトキハ其事實ヲ認ムヘキ書類

第五條 物件ノ賣拂、貸下ニ關シ競争ニ付シタル契約書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 物件ノ賣拂又ハ貸下ニ關スル決議書類

二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但其公告方法ヲ付記スヘシ

三 豫定價格調書但其算出ノ基ク所ヲ示スヘシ

四 一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書

競争ノ落札者契約ヲ結ハスシテ更ニ競争ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ尙前回ノ競争ニ關スル前項ノ書類ヲ其

證憑書ニ添付スヘシ

第六條 物件ノ賣拂、貸下ニシテ競争ニ付スルモノ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモノ豫定價格ノ制限

ニ達セス隨意契約ヲ爲シタルモノハ契約書ニ其事由ヲ付記シ第五條ニ規定シタル書類ヲ添付スヘシ

第七條 前各條ノ外特ニ明細書ヲ要スルモノハ別ニ之ヲ指定ス

第八條 證憑書類中既ニ他ノ計算證明上會計検査院ニ提出濟ノモノアルトキハ其事由ヲ計算書ノ備考ニ記載

スヘシ

第九條 證憑書ハ各目ニ區分編纂シ其金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ尙細別ヲ要スルモノハ適宜其區分ヲ爲ス

ヘシ

附 則

第十條 本規程ハ明治三十三年度分ヨリ施行ス
 明治三十三年度分ノ證憑書及明細書ニ限リ租稅外歳入調定額證明規程各特別會計歳入確定額證明規程ノ例
 ニ依ルコトヲ得
 臺灣歳入及稅關雜收入ニ關スル證明規程ハ別ニ之ヲ定ム

第一號

明治何年度
 歳入經常部
 何々(款) 何々(款)
 歳入臨時部
 何々(款) 何々(款)
 徴收額計算書

計算書ハ一般會計ト特別會計ト各別ニ調製スヘシ
 計算書ヲ授受スルモノハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 計算書及明細書ノ用紙ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 計算書及明細書ハ改竄捺捺ヲ禁ス若シ誤脱字等ニテ訂正ナシタルトキハ二線ヲ横畫シ主任
 官吏之ニ捺印スヘシ

證憑書 何冊
 何々 ”

廳 名

摘 要	調定済額 (確定額)		收入済額		不納缺損額		收入未済額		備 考
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	
歳入經常部									○調定済額ニハ前年度未收入ニシテ本年度收入済ニ係ルモノ及調定外誤納ノモノアルトキハ 其金額ヲ併算スヘシ
何々(款)									
何々(項)									
何々(目)	0		0		0		0		
何々	0		0		0		0		
計	0		0		0		0		
何々(項)									
何々(目)	0		0		0		0		
何々	0		0		0		0		
計合計	0		0		0		0		
何々(款)									
何々(項)									
何々(目)	0		0		0		0		
何々	0		0		0		0		
計總計	0		0		0		0		
歳入臨時部 (經常部ニ同シ)									

<p style="margin: 0;">明治何年度</p> <p style="margin: 0;">收入未済額明細書</p>	<p style="margin: 0;">第二號</p>
<p style="margin: 0;">明治何年度歳入經常部何々(款)歳入臨時部何々(款)徴収額計算證明候也</p> <p style="margin: 0; text-align: center;">職官氏名印</p> <p style="margin: 0; text-align: center;">會計検査院長宛</p> <p style="margin: 0; text-align: center;">年 月 日</p>	
<p style="margin: 0;">應 名</p>	

(收入官吏ノ現金領收額アルトキ又ハ收入済額ト金庫ノ領收済額ト差違アルトキハ本欄ヲ付スヘシ)			
摘 要	金 額		備 考
收入官吏現金領收額	0	0	<small>内何項ハ主任收入官吏某利便ハ主任收入官吏某 該ノ分 (本人ノ主任收入官吏ヲ附キ又トキハ取戻金) 額及其官氏名ヲ掲載セキハ備考ヲ添付スルモ 期ナシ</small>
當該年度三月三十一日迄ノ分	0	0	
翌年度七月三十一日迄ノ分	0	0	
計	0	0	
收入済額ト金庫領收済額トノ差違			<small>内何項ハ何々ニ由リ何項ハ何々ニ由リ差違未済 何年何月日据置認許ノ分</small>
收入官吏翌年度七月三十一日迄現金未済額	0	0	
收入官吏本年度歳入ヲ何年度歳入トシ翌年度七月三十一日迄ニ取戻公同	0	0	
計	0	0	
收入官吏何年度歳入ヲ本年度歳入トシ翌年度七月三十一日迄ニ取戻公同	0	0	<small>”</small>
計	0	0	<small>”</small>
翌年度七月三十一日迄金庫ノ領收済額	0	0	
計	0	0	

第三號

明治何年度

地所貸下明細書

應 名

年 月 日

職 官 氏 名 印

摘 要	納 期 日	金 額			備 考
		円	銭	厘	
歳入經常部 何々(款)					
何々(項)					
何々(目)					
住所氏名 何々	何年何月何日 ”	0	0	0	何々=何々收入未了
計		0	0	0	何々
何々(目)					
何々	”	0	0	0	何々
合計		0	0	0	何々
何々(款)					
何々(項)					
何々(目)					
何々	”	0	0	0	
何々	”	0	0	0	
計		0	0	0	
總計		0	0	0	
歳入臨時部 (經常部=同シ)					

○前年度ヨリ繰越未収入額ニシテ本年度中尚收入ニ至ラサルモノアルトキハ各之ヲ別項トナシ毎年度ニ區分掲記スヘシ
○前年度ヨリ繰越未収入額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其金額事由ヲ備考ニ掲記スヘシ

第四號

明治何年度

貸付金明細書

應 名

年 月 日

職官氏名印

摘要	段 別				料 金		調定済額 (確定額)		備 考
	可	限	高	少	同	異	同	異	
原 野 之 部									○年期貸下地ニ係ル料金ハ年額ヲ一時貸下地ニ係ル分ハ其料金ノ全額ヲ掲記スヘシ ○減ノ部調定済額ハ調定済ノ金額ヲ未済スルニ止メ其調定済額ト差引ヲ要セス ○料金ト調定済額ト計算上適合セサルモノアルトキハ其ノ金額事由ヲ掲記スヘシ (△ハ未済)
年期貸下地									
何年四月一日現在高ニ付スル分	0				0		0		
増 之 部									
何年何月貸渡	0				0		0		
何年何月貸渡	0				0		0		
増ノ部計	0				0		0		
減 之 部									
何年何月満期ノ分	0				0		△0		
何年何月何々ニ依リ解除ノ分	0				0		△0		
何々	0				0		△0		
減ノ部計	0				0		△0		
増減差引計	0				0		0		
一時貸下地	0				0		0		
合計							0		

第五號

明治何年度何月

鐵道(資本勘定)(收益勘定)(用品資金)

徴收計算書

計
算
書
ハ
資
本
勘
定
、
收
益
勘
定
、
用
品
資
金
ト
テ
各
別
ニ
調
製
ス
ヘ
シ
計
算
書
ハ
授
受
ス
ル
モ
ハ
其
年
月
日
ヲ
表
紙
ニ
記
載
ス
ヘ
シ
計
算
書
及
明
細
書
ハ
用
紙
ノ
界
沙
引
厚
質
美
潔
紙
ニ
ツ
テ
用
非
左
側
ニ
曲
尺
一
寸
餘
ノ
ヲ
横
書
シ
主
任
官
吏
之
ニ
捺
印
ス
ヘ
シ
一
計
算
書
ハ
改
換
塗
抹
ヲ
禁
ス
誤
記
脱
字
等
アリ
訂
正
ヲ
ナ
シ
タ
ル
ト
キ
ハ
二
線
ヲ
横
書
シ
主
任
官
吏
之
ニ
捺
印
ス
ヘ
シ

證憑書何冊

何々何冊

名 應

年 月 日

職 官 氏 名 印

摘 要	貸 在 高				調定済額	備 考
	前年度ヨリ起高	本年度増額	本年度減額	翌年度へ起高		
民業資本金						〇〇〇本年度増減額ニ對シテハ各其事由ヲ備考ニ記載スヘシ ○各種貸付ノ對シテハ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ ○生徒貸付ノ對シテハ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ ○民業資本金ハ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ ○各種貸付ハ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ
何々ノ爲何々へ貸下(一箇年利子何分)	0	0	0	0	0	
何々ノ爲何々外若干名へ貸下(一箇年利子何分)	0	0	0	0	0	
何々	0	0	0	0	0	
何々	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	

摘要	確定額			収入済額			不納缺損額			収入未済額	備考
	前月迄	本月	計	前月迄	本月	計	前月迄	本月	計		
	圓	銭	厘	圓	銭	厘	圓	銭	厘		
資本勘定											
何々(款)											
何々(項)											
何々(目)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
何々	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
何々(項)											
何々(目)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
何々	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

確定額ニハ前年度未収入ニシテ本年度収入済ニ係ルモノ及調定外誤納ノモノアルトキハ其金額ヲ併算スヘシ

(本欄ハ収入済額ト金庫領收済額ト差違アルトキ最終徴收計算書ニ付スヘシ)

摘要	金額	備考
出納官其翌年度五月三十一日迄現金持込未済	0	内前項ハ何々ニ由リ初項ハ何々ニ由リ持込未済
出納官其本年度出入手何年度出入トシテ翌年度五月三十一日迄ニ誤納公算	0	何年何月日据置認許ノ分
何々	0	”
計	0	
出納官其何年度出入手本年度出入トシテ翌年度五月三十一日迄ニ誤納公算	0	”
何々	0	”
計	0	
翌年度五月三十一日迄金庫ノ領收済額	0	

摘要		金額		備考
摘要	金額	圓	銭	
客車	收入	0	0	
乘車	貨物	0	0	
手荷	貨物	0	0	
小荷	貨物	0	0	
何	計	0	0	
貨車	收入	0	0	
貨物	貨物	0	0	
切車	貨物	0	0	
何	計	0	0	
何	々々	0	0	
何	計	0	0	
	合計	0	0	

明治何年度

運輸收入明細書

明治何年度何月何々歳入徴收計算證明候也

職官氏名

會計検査院長宛

年 月 日

廳 名

明治何年何月何日

職官氏名印

● 支出證明規程

三十二年五月
會檢途第一號

改正

三十五年會檢
途一號五號

明治二十六年會計検査院達第二號支出證明規程左ノ通改正ス

支出證明規程

第一條 會計規則又ハ各特別會計規則ニ依リ仕拂命令官又ハ作業事務長作業支部局長、學校長、圖書館長若ク

ハ其支部長ノ調製スヘキ支出計算書ハ別記書式ニ據ルヘシ

支出計算書ノ提出期限ハ翌月十五日マテトス

第二條 左ノ事項ハ支出計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雑ニ涉ルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

一 科目更正若クハ定額戻入ヲ爲スヘキモノアルトキハ其金額事由

二 誤拂過渡其他ノ返納ニ由リ歳入ニ組入ルヘキモノアルトキハ其金額事由

三 缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

第三條 最終支出計算書ニハ年度末日現在人員部局別官等俸給明細書ヲ添付スヘシ

作業事務長ノ最終支出計算書ニハ第一項明細書ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 受拂勘定表但物品會計官吏毎ニ區分シタル各種物品價格受拂仕譯書ヲ要ス

二 年度末日計算表

三 固定資本價客増減明細書並其評價書類及鐵道修理費調書

四 材料素品機械運轉用品生産品又ハ造船材料鐵道用品ニシテ年度末ニ於テ其價格ヲ改定シタルモノアルトキハ每件其事由及市價又ハ生産費調書

五 支出未済ニシテ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ每件其金額事由明細書

六 代價收入済ニシテ物品未済ニ係ルモノアルトキハ每件其金額事由明細書

學校長又ハ圖書館長ノ最終支出計算書ニハ第一項明細書ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 維持資金及特別資金明細書

二 支出未済支出殘額又ハ仕拂未済ニシテ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ每件其金額事由明細書

三 歳入殘餘ニシテ維持資金若クハ特別資金ニ組入レタルモノアルトキハ其金額調書

第四條 最終支出計算書提出ノ際概算渡現金前渡ノ精算ニ至ラサルモノ前金拂ニ係ル製造又ハ物件ノ購買ニシテ其事ノ完了ニ至ラサルモノ及誤拂過渡科目違ノ處分未済ニ係ルモノアルトキハ其事由及完結期限ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ

最終支出計算書提出ノ後誤拂過渡科目違ヲ發見シタルトキハ其都度之ヲ報告スヘシ
前二項ノ各事項ハ處分完結ニ隨ヒ其證憑書ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ

第五條 支出ノ證憑トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル契約書及請求書其他支出ノ所由並計算ノ基ク所ヲ證明スヘキ書類トス但事ノ複雑ニ涉ルモノハ明細書若クハ說明書ヲ添付シ又臨時特殊ニ係ル事項ハ當該長官ノ命令書若クハ決議書等ヲ添付スヘシ

集合仕拂命令集合仕拂請求書及金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スヘキ裏書アル仕拂命令仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ在リテハ金庫ノ領收證書ヲ提出スヘシ

領收證書ニハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ番號ヲ付記スヘシ

第六條 證憑書ハ原本ニ限ル若シ原本ヲ提出シ難キ場合ニ在リテハ當該官吏ノ保證アル謄本ニ其事由ヲ付記シ之ヲ提出スヘシ

外國語ヲ以テ記載シタル證憑書ニハ其譯文ヲ付スヘシ

第七條 俸給其他一定ノ給與ニシテ其給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由及年月日ヲ證憑書ニ付記スヘシ

恩賞諸祿ノ繼續支給ニ係ルモノハ其年額及受領者ノ舊官名ヲ示シ又遺族ノ受領ニ係ルモノハ其權利ノ起因ヲ證憑書ニ付記スヘシ

俸給其他ノ支給ニシテ其規定ノ期限ニ依ラサルモノアルトキハ其事由ヲ證憑書ニ付記シ轉任退官死亡等ニ由リ支給ヲ止メタルモノアルトキハ之ヲ報告スヘシ

第八條 旅費ノ領收證書若クハ精算證書ニハ其用務及旅行ノ日數年月日里程宿泊場所ヲ詳記シタル明細書ヲ

添付スヘシ但領收證書又ハ精算證書ニ付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得

旅行中迂路ヲ經過セシモノ又ハ病氣滯在其他ノ事故ニ由リ特ニ日數ヲ要シタルモノ若クハ旅費ノ實費拂又ハ割増ヲ爲シタルモノアルトキハ當該上官ノ認許書ヲ提出スヘシ

第九條 競争契約ニ依リタル千圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル證憑書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル決議書類

二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但其公告方法ヲ付記スヘシ

三 豫定價格調書但其算出ノ基ク所ヲ示スヘシ

四 一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書

五 會計規則第七十三條但書ニ依リタルモノアルトキハ其事由書

競争ノ落札者請負又ハ購買借入ノ契約ヲ結ハスシテ更ニ競争ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ尙前同ノ競争ニ關スル前項ノ書類ヲ其證憑書ニ添付スヘシ

第十條 隨意契約ニ依リタル千圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル證憑書ニハ其決議書類及競争契約ニ依ラサリシ理由ヲ詳記シタル說明書ヲ添付スヘシ

工事又ハ物件ノ購買借入ニシテ競争ニ付スルモノ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモノ豫定價格ノ制限ニ達セスシテ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其事由ヲ付記シ第九條ニ規定シタル書類ヲ提出スヘシ

第十一條 千圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル契約ニシテ其締結後變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモノハ決議書及其關係書類ヲ證憑書ニ添付スヘシ

第十二條 千圓以上ノ工事ニ關スル證憑書ニハ會計規則第六十七條第一項ニ依リ監督官吏若クハ技術者ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ

工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完済前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ヒタルモノハ其證憑書ニ會計規則第六十七條第二項ニ依リ検査官吏ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ

第十三條 總價格千圓以上ノ直營事業ニ關スル最初支出ノ證憑書ニハ其設計書仕譯書設計圖面及其附屬書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニシテ特ニ毎年度設計書ヲ調製スルモノハ其年度最初支出ノ證憑書ニ之ヲ添付スヘシ

事業竣功シタルトキハ竣功明細書ヲ調製シテ其最終支出ノ證憑書ニ添付シ若シ設計ヲ變更シタルトキハ其變更設計書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニ係ルトキハ當該年度内ニ於ケル既済ノ部分ニ就テ竣功明細書ヲ調製スヘシ

竣功明細書ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 工事ニ其工費豫算ヨリ代價ヲ支辨セシテ物品又ハ勞力ヲ使用シタルトキハ其種類及見積價格ヲ記載シタル明細書ヲ證憑書ニ添付スヘシ但證憑書ニ付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得

第十五條 物件ノ購買又ハ賠償ニ關スル證憑書ニハ其名稱種類品位數量及單價ヲ明示シ該物件所要ノ目的ヲ付記スヘシ

前項ノ證憑書ニハ官有財産簿又ハ物品出納簿ニ登記濟ノ年月日ヲ記載スヘシ但前金拂ニ係ルモノハ其事由ヲ付記スヘシ

第十六條 諸拂戻ノ證憑書ニハ其支出ヲ要スル事實ノ生シタル年月日及支出ノ請求ヲ爲シタル年月日ヲ付記スヘシ

第十七條 誤拂過渡其他ノ返納ニ由リ歳入ニ納付シタルモノハ歳入ノ徵收ヲ監督スル官吏若クハ當該金庫ノ保證書ヲ提出スヘシ

第十八條 證憑書ハ豫算各目ニ區分編纂シテ其金額紙數ヲ表紙ニ記載シ概算渡ニ係ルモノアルトキハ其金額ヲ付記スヘシ但金庫ノ領收證書ニシテ各目ニ區分シ難キモノハ其關係書類ト共ニ各項ニ區分編纂シ各目仕譯書ヲ添付スヘシ

概算渡ニ對スル精算證書ハ其概算渡ヲ爲シタル月ヲ以テ區分スヘシ

證憑書ノ編纂ニ關シ特ニ區分ヲ要スルモノハ別ニ之ヲ指定ス

附則

第十九條 本規程ハ明治三十二年度ヨリ施行ス

作業及鐵道會計支出證明規程官立學校及圖書館會計支出證明規程鎮守府造船材料資金會計支出證明規程官設鐵道用品資金會計支出證明規程葉煙草專賣資金會計支出證明規程及明治二十七年會計検査院達第二十五號明治三十一年會計検査院達第四號ハ明治三十一年度限り廢止ス

(別記)

一 計算書ヲ受授スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
二 計算書ノ用紙ハ薄沙引厚質美濃紙ニツ折テ用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ線代ヲ存スヘシ
三 計算書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ

明治何年度	
何年	何月
歳出經常部	
何々(款)	何々(款)
歳出臨時部	
何々(款)	何々(款)
支出計算書	
證憑書 何冊	
何々	〃
廳	名

仕 拂 命 令 済 額 (仕 拂 請 求 書 發 行 済 額)								
摘 要	前月迄命令額 (前月迄請求額)		本月命令額 (本月請求額)		本月戻入額		計	備 考
	円	銭	円	銭	円	銭		
經 常 部								
何々(款)								
何々(項)								
何々(目)	0		0		0		0	
何々	0		0		0		0	
何々	0		0		0		0	
計	0		0		0		0	
何々								
何々	0		0		0		0	
何々	0		0		0		0	
計	0		0		0		0	
合計	0		0		0		0	

總 括									
仕拂請求額 (豫算額)	増	減	計	摘 要	仕拂命令済額 (仕拂請求書 発行済額)		計	備 考	
					円	銭			
				經 常 部				○此摺括ハ最終證明ノ月ニ於テ提出スヘシ	
				何々(款)					
				何々(項)					
				何々(目)	0		0		
				何々	0		0		
				何々	0		0		
0	0	0	0	計	0		0		
				何々					
				何々	0		0		
0	0	0	0	計	0		0		
0	0	0	0	合計	0		0		
				臨 時 部 (經常部ニ同シ)					

科目更正 定額戻入 歳入納付		金額	
摘要	金額	圓	銭
<u>科目更正</u>			
總 費			
通信運搬費			
何月分仕拂命令第何號何某渡金若干圓何科目ヲ以テ整理ノ處 何々ニヨリ本科目ニ更正セリ	計	0	
<u>定額戻入</u>			
俸給及諸給			
委任俸給			
何月分仕拂命令第何號何官何級俸何某渡ノ内何月日何廳何官 ニ轉任セシニ付何日分俸給過渡返納ノ分定額へ戻入セリ	計	0	
<u>歳入納付</u>			
雜給及雜費			
備入料			
何月分仕拂命令第何號何某渡ノ内何々ニヨリ誤拂チナシタル ニ付何年度歳入トシテ納付セリ別紙證書第何號ノ如シ 何月分仕拂命令第何號何某渡ノ内同上	計	0	
<u>過年度支出</u>			
旅 費			
内國旅費			
何年度何月分仕拂命令第何號何某渡旅費何々ニヨリ支給不足 ノ分本年度ニ於テ支出ヲ要シタルモノナリ	計	0	

何々概算渡内譯							
摘要	概算渡額	精 算 額				未精算額	備 考
		仕拂額	戻入額	歳入納付額	計		
		圓 銭	圓 銭	圓 銭	圓 銭		
三十二年四月分	100,000.0	0	0	0	0	100,000.0	
” 五月分	50,000.0	40,000.0	10,000.0	0	50,000.0	0	
” 六月分	50,000.0	0	50,000.0	0	50,000.0	0	
” 七月分	50,000.0	50,000.0	0	0	50,000.0	0	
” 八月分	50,000.0	30,000.0	10,000.0	0	40,000.0	10,000.0	
計	300,000.0	120,000.0	70,000.0	0	190,000.0	110,000.0	
				(後月分ノ例)			
三十二年四月分	100,000.0	50,000.0	10,000.0	10,000.0	70,000.0	30,000.0	
” 八月分	10,000.0	0	0	0	0	10,000.0	
” 九月分	90,000.0	20,000.0	10,000.0	0	30,000.0	60,000.0	
計	200,000.0	70,000.0	20,000.0	10,000.0	100,000.0	100,000.0	

過年度支出 内 譯	
摘 要	金 額
<p>○特別會計ニシテ前年度ヨリ繰越シタル支出未済額(支出殘額)ヲ支出シタルトキハ特ニ前年度支出未済額支出(殘額支出)ノ題目ヲ設ケテ其科目金額事由ヲ記載スヘシ</p> <p>○事ノ複雜ニ涉ルトキハ科目及合計金額ノミヲ掲記シ別ニ事由明細書ヲ添付スルコトヲ得</p>	

明治何年度何年何月支出計算證明候也

職 官 氏 名 印

會 計 檢 査 院 長 宛

年 月 日

●仕拂證明規程

三十二年五月
會檢連第二號

改正

三十五年會檢
連二號五號

仕拂證明規程左ノ通定ム

仕拂證明規程

第一條 會計規則又ハ各特別會計規則ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ調製スヘキ仕拂計算書ハ別記書式ニ據ルヘシ

仕拂計算書ノ提出期限ハ翌月十五日マテトス

第二條 左ノ事項ハ仕拂計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雑ニ涉ルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

一 科目更正ヲ爲スヘキモノ又ハ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

二 誤拂過渡ニシテ其處分ヲ爲スヘキモノ又ハ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

三 過年度ニ屬スル經費ノ仕拂ヲ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

四 缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

五 會計規則第八十八條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其金額事由

六 他ノ出納官吏ト現金ノ受授ヲ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

七 領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ其金額

八 金庫ニ義務委託ヲ爲シタル金額並拂込月日及其月末殘額

第三條 最終仕拂計算書提出ノ際概算渡ノ精算ニ至ラサルモノ前金拂ニ係ル製造又ハ物件ノ購買ニシテ其事ノ完了ニ至ラサルモノ領收證書ノ到達セサルモノ仕拂殘額ノ返納ヲ了セサルモノ及誤拂過渡科目違ノ處分未済ニ係ルモノアルトキハ其事由及完結期限ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ

最終仕拂計算書提出ノ後誤拂過渡科目違ヲ發見シタルトキハ其都度之ヲ報告スヘシ
前二項ノ各事項ハ處分完結ニ隨ヒ其證書ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ

第四條 仕拂ノ證憑トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル契約書
其他仕拂ノ所由並計算ノ基ク所ヲ證明スヘキ書類トス但事ノ複雜ニ涉ルモノハ明細書若クハ說明書ヲ添付
シ又臨時特殊ニ係ル事項ハ當該長官ノ命令書若クハ決議書等ヲ添付スヘシ
正當受取人ノ領收證書ヲ得難キ場合ニ在リテハ其事由ヲ付記シタル仕拂書ニ當該上官ノ認定ヲ受ケ之ヲ提
出スヘシ

領收證書及仕拂書ニハ番號ヲ付スヘシ

第五條 證憑書ハ原本ニ限ル若シ原本ヲ提出シ難キ場合ニ在リテハ當該官吏ノ保證アル謄本ニ其事由ヲ付記
シ之ヲ提出スヘシ

外國語ヲ以テ記載シタル證憑書ニハ其譯文ヲ付スヘシ

第六條 俸給其他一定ノ給與ニシテ其給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由及年月日ヲ證憑書ニ付記
スヘシ

俸給其他ノ支給ニシテ其規定ノ期限ニ依ラサルモノアルトキハ其事由ヲ證憑書ニ付記シ轉任退官死亡等ニ
由リ支給ヲ止メタルモノアルトキハ之ヲ報告スヘシ

第七條 旅費ノ領收證書若クハ精算證書ニハ其用務及旅行ノ日數年月日里程宿泊場所ヲ詳記シタル明細書ヲ
添付スヘシ但領收證書又ハ精算證書ニ付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得

旅行中迂路ヲ經過セシモノ又ハ病氣滞在其他ノ事故ニ由リ特ニ日數ヲ要シタルモノ若クハ旅費ノ實費拂又
ハ割増ヲ爲シタルモノアルトキハ當該上官ノ認許書ヲ提出スヘシ

第八條 競争契約ニ依リタル千圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル證憑書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
一 工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル決議書類

二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但其公告方法ヲ付記スヘシ
三 豫定價格調書但其算出ノ基ク所ヲ示スヘシ

四 一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書
五 會計規則第七十三條但書ニ依リタルモノアルトキハ其事由書

競争ノ落札者請負又ハ購買借入ノ契約ヲ結ハスシテ更ニ競争ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ尙前回ノ競争ニ關
スル前項ノ書類ヲ其證憑書ニ添付スヘシ

第九條 隨意契約ニ依リタル千圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル證憑書ニハ其決議書類及競争契約ニ
依ラザリシ理由ヲ詳記シタル說明書ヲ添付スヘシ

工事又ハ物件ノ購買借入ニシテ競争ニ付スルモノ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモノ豫定價格ノ制限
ニ達セスシテ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其事由ヲ付記シ第八條ニ規定シタル書類ヲ提出スヘシ

第十條 千圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル契約ニシテ其締結後變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモ
ノハ決議書及其關係書類ヲ證憑書ニ添付スヘシ

第十一條 千圓以上ノ工事ニ關スル證憑書ニハ會計規則第六十七條第一項ニ依リ監督官吏若クハ技術者ノ作
リタル調書ヲ添付スヘシ

工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ヒタルモノハ其證憑書ニ會計規則
第六十七條第二項ニ依リ検査官吏ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ

第十二條 總價格千圓以上ノ直營事業ニ關スル最初仕拂ノ證憑書ニハ其設計書仕譯書設計圖面及其附屬書類
ヲ添付スヘシ但繼續事業ニシテ特ニ毎年度設計書ヲ調製スルモノハ其年度最初仕拂ノ證憑書ニ之ヲ添付ス
ヘシ

事業竣功シタルトキハ竣功明細書ヲ調製シテ其最終仕拂ノ證憑書ニ添付シ若シ設計ヲ變更シタルトキハ其
變更設計書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニ係ルトキハ當該年度内ニ於ケル既濟ノ部分ニ就テ竣功明細書ヲ調
製スヘシ

竣功明細書ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 工事ニ其工費豫算ヨリ代價ヲ支辨セシテ物品又ハ勞力ヲ使用シタルトキハ其種類及見積價格ヲ記載シタル明細書ヲ證憑書ニ添付スヘシ但證憑書ニ付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得

第十四條 物件ノ購買又ハ賠償ニ關スル證憑書ニハ其名稱種類品位數量及單價ヲ明示シ該物件所要ノ目的ヲ付記スヘシ

前項ノ證憑書ニハ官有財産簿又ハ物品出納簿ニ登記濟ノ年月日ヲ記載スヘシ但前金拂ニ係ルモノハ其事由ヲ付記スヘシ

第十五條 前渡金ヲ外國貨幣ニテ受入レタルモノ若クハ外國貨幣ニ交換シタルモノハ其爲替相場ヲ證明スヘキ書類ヲ提出スヘシ

第十六條 返納金ヲ金庫ニ拂込ミタルモノハ金庫ノ領收證書誤拂過渡其他ノ返納金ヲ受取人ヨリ歳入ニ納付セシメタルモノハ歳入ノ徵收ヲ監督スル官吏若クハ當該金庫ノ保證書ヲ提出スヘシ

官吏遺族扶助法納金ヲ收入官吏ニ拂込ミタルモノハ當該收入官吏ノ領收證書ヲ提出スヘシ

第十七條 證憑書ハ豫算各目ニ區分編纂シテ其金額紙數ヲ表紙ニ記載シ概算渡ニ係ルモノ及領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ其金額ヲ付記スヘシ但分任出納官吏ノ取扱ニ係ル證憑書ハ之ヲ區分編纂シ其金額及官氏名ヲ表紙ニ記載スヘシ

未到達ニ係ル領收證書ノ到達シタルモノハ仕拂ノ月ヲ以テ區分スヘシ

證憑書類ノ編纂ニ關シ特ニ區分ヲ要スルモノハ別ニ之ヲ指定ス

第十八條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ仕拂計算書及證憑書ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ

一 仕拂計算書ト現金出納簿トノ符合及殘額現存ノ保證

二 事實ニ適合セスト認定シタル事項ノ金額事由

附則

第二十條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

第二十一條 本規程ハ明治三十二年度ヨリ施行ス

現金前渡金仕拂證明規程及明治二十七年會計検査院達第七號ハ明治三十一年度限り廢止ス

(別記)

一 計算書ヲ受授スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ	
一 計算書ノ用紙ハ辨沙引厚質美濃紙ニツ折ナ用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ綴代ヲ存スヘシ	
一 計算書ハ改書捺捺ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ	

明治何年度	何年何月(自何月日至何月日)
歳出經常部	何々(款) 何々(款)
歳出臨時部	何々(款) 何々(款)
仕拂計算書	

證憑書 何冊	何々ク
應 名	

前月迄領收額		本月領收額		本月返納額		計		摘 要
円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	
0		0		0		0		經 常 部
								何々(款)
								何々(項)
								何々(目)
								何々
								計
0		0		0		0		何々
								何々
0		0		0		0		計
								合計
								臨時部
								(經常部=同シ)
								身元保證金
								主任出納官吏何某 200,00
								分任出納官吏何某 100,00

前月迄仕拂額		本月仕拂額		本月回収額		計		残 額		備 考
円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	
0		0		0		0				○交替ノトキハ前任官吏ノ計算額ヲ併算スヘシ ○定額ニ戻入シ又ハ繰入ニ納付スルタメ現金ヲ金庫ニ拂込ミタルモノハ本月返納額ノ區ニ 掲記シ領收額ヨリ控除スヘシ ○仕拂證明ノ後誤拂過渡其他ノ返戻金ヲ受取人ヨリ領收シタルトキハ本月回収額ノ區ニ掲 記シ仕拂額ヨリ控除スヘシ ○身元保證金ニ異動アリタルトキハ其事由ヲ付記スヘシ
0		0		0		0				
0		0		0		0		0		
0		0		0		0				
0		0		0		0		0		
0		0		0		0				
0		0		0		0		0		
0		0		0		0				
0		0		0		0				
0		0		0		0				

(参照)

●會計検査院達第七號

明治二十七年
二月十六日

作業及鐵道會計規則領守府造船材料資金會計規則官立學校及圖書館會計規則ニ據リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ仕拂計算書ハ現金前渡仕拂證明規程ノ例ニ據ル

第六輯 會計 第十章 會計検査

五九一

明治何年度何月(自何月日至何月日)仕拂證明候也

職官氏名印

會計検査院長宛

年 月 日

何々概算渡内譯

摘要	概算渡額	精 算 額			未精算額	備 考	
		仕 拂 額	回 收 額	計			
	圓 銭 厘	圓 銭 厘	圓 銭 厘	圓 銭 厘	圓 銭 厘		
三十二年四月分	100,000	0	0	0	100,000	○概算渡ヲ受ケタル者ヨリ精算殘金ヲ繰入ニ納付セシメタルモノアルトキハ其金額ヲ仕拂額ニ算入シ之ヲ備考ニ記載スヘシ	
” 五月分	50,000	40,000	10,000	50,000	0		
” 六月分	50,000	0	50,000	50,000	0		
” 七月分	50,000	50,000	0	50,000	0		
” 八月分	50,000	30,000	10,000	40,000	10,000		
計	300,000	120,000	70,000	190,000	110,000		
		(後月分ノ例)					
三十二年四月分	100,000	50,000	20,000	70,000	30,000		
” 八月分	10,000	0	0	0	10,000		
” 九月分	90,000	20,000	10,000	30,000	60,000		
計	200,000	70,000	30,000	100,000	100,000		

五九〇

●通信官署現金出納計算證明規程

三十七年二月
會檢第一號

郵便電信電話官署現金出納計算證明規程左ノ通り定ム

郵便、電信、電話官署現金出納計算證明規程

第一條 郵便、電信、電話官署ニ於テ歳入金、歳出金並歳入歳出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲シタルモノノ現金出納計算證明ハ本規程ニ據ルヘシ

第二條 出納官吏及出納員ノ證明スヘキ現金出納計算書ハ第一號書式ニ據リ各別ニ調製スヘシ但出納官吏所在局所在勤出納員ノ計算ハ其出納官吏ノ證明ニ併算スルモノトス

現金出納計算書ノ提出期限ハ年度經過後一箇月以内又交替ヲ爲シタルトキハ其交替後三十日以内トス

第三條 左ノ事項ハ現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ
一 會計規則第八十八條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其金額事由
二 殘高ニシテ後任官吏又ハ他ニ引繼キタルモノアルトキハ其事由

第四條 現金出納計算書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
一 會計規則第九十三條ニ依レル檢定書
二 歳出ヨリ郵便爲替郵便貯金郵便取立金特別會計へ受入レタルモノアルトキハ其事由ヲ詳記シタル明細書

三 郵便爲替郵便貯金郵便取立金特別會計ヨリ歳入ヘ納入シタルモノアルトキハ其事由ヲ詳記シタル明細書

四 年度末ヲ以テ現金出納計算書ヲ提出スル主任出納官吏ハ第二號及第三號ノ書式ニ據リ調製シタル内譯書

第五條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一 歳入金ヲ金庫ニ拂込ミタルモノハ其領收證書

二 金庫ニ寄託シタルモノ又ハ供託シタルモノハ當該上官又ハ金庫ノ保證書

第六條 證憑書類ハ所屬年度ニ區分編纂シ其金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ

第七條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ現金出納計算書及證憑書類ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ

第八條 下検査書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 現金出納計算書ト現金出納簿トノ符合及殘額現存ノ保證

二 事實ニ適合セスト認定シタル事項ノ金額事由

第九條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

附則

第十條 本規程ハ明治三十六年度分ヨリ施行ス

第一號書式甲

一 計算書ヲ受授スルモノハ其年月日ヲ本書ニ記載スヘシ

一 用紙ハ堅牢ナルモノヲ用ユヘシ

一 計算書ハ改竄又ハ塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ

明治 年度(自 月 日)現金出納計算書 證憑書何冊 何々					
摘要	受高	摘要	拂高	備考	
(主任出納官更記帳例)	圓 銭厘		圓 銭厘		
過超金額收高	0	資金交付高	0	一身元保證金ヲ納メタルトキハ其金額ヲ本書ノ末尾ニ記載スヘシ	
中央金庫ヨリ戻入高	0	金庫へ預入高	0		
歳出ヨリ受入高	0	歳出へ繰替拂高	0		
歳出繰替戻入高	0	歳入へ納付高	0		
何年度歳入受入高	0	金庫へ供託高	0		
何々々	0	何々々	0		
計	0	計	0		
越高	0	残高	0		
合計	0	合計	0		
(主任出納官以下記帳例)					残高區分 主任出納官更氏名〇 出納員氏名〇
資金ノ部		資金ノ部			
過超金受領高	0	資金交付高	0		
資金受領高	0	過超金納付高	0		
郵便爲替金管理所ヨリ	0	郵便爲替計金管理所へ	0		
立替金	0	立替金還付高	0		
證券引換金受入高	0	臨時拂高	0		
臨時受高	0				
計	0	計	0		
郵便爲替振出高	0	郵便爲替拂渡高	0		
外國爲替振出高	0	外國爲替拂渡高	0		
振替爲替振出高	0	振替爲替拂渡高	0		
郵便取立金受入高	0	郵便取立金拂渡高	0		

摘要	受高	摘要	拂高	備考
外國取立金受入高	0	外國取立金拂渡高	0	
郵便貯金預高	0	郵便貯金拂渡高	0	
歳入金受入高	0	歳出金拂渡高	0	
歳出金戻入高	0	雜部金拂渡高	0	
雜部金受入高	0	何々々	0	
何々々	0			
合計	0	合計	0	残高區分
越高	0	残高	0	主任出納官更氏名〇 出納員氏名〇
總計	0	總計	0	

明治 年度現金出納計算證明候也

職官氏名印

會計検査院長宛

年 月 日

為替貯金取立金特別會計内譯				
摘要	受高	拂高	残高	備考
越中央金庫	0	0	0	一資金過越金ノ受拂相符合セサルトキハ其事由及金額ヲ備考ニ詳記スヘシ 一拂高ノ受高ヨリ多キトキハ其差額ヲ残高ノ欄ニ朱記スヘシ
立金過越金	0	0	0	
臨時受拂	0	0	0	
郵便為替	0	0	0	
外國為替	0	0	0	
郵便取立金	0	0	0	
外國取立金	0	0	0	
郵便貯金	0	0	0	
何々	0	0	0	
計	0	0	0	

第二號書式

一歳入歳出及雜部金内譯ハ振替勘定ヲ以テ整理シタルモノアルトキハ各受拂金額ノ欄ヲ現金及振替ノ二欄ニ
区分シテ記載スヘシ

明治 年度

受拂計算内譯書

應 名

書第一號 乙號

歳入金金庫拂込濟否表

年度	越高	領收高	計	拂込高	残高	備考
何年度	0	0	0	0	0	一歳入ノ過誤納金ヲ拂戻シタルモノアルトキハ(歳出拂渡高ノ科目ヲ以テ整理スヘキモノヲ除ク)拂込高ノ次位ニ一欄ヲ設クテ之ヲ記載スヘシ 一振替計算ヲ以テ整理シタルモノアルトキハ受拂金額ノ欄ヲ現金及振替ノ二欄ニ区分シテ之ヲ記載スヘシ
何年度	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	

職官 氏 名 印
年 月 日

歳出金繰替及戻入高内譯

局所名	何年度				何年度				備考
	越高	繰替高	戻入高	残高	越高	繰替高	戻入高	残高	
何何何	0	0	0	0	0	0	0	0	一 局所ハ仕拂命令官所在總毎ニ區分スヘシ 一 入金ノ科目ヲ以テ整理スヘキモノヲ除ク 一 繰替高ノ次位ニ追徴高ノ一欄ヲ設ケ之ヲ記載ス 一 繰替ノ定額ニ戻入ヲ要スル歳出金ノ受拂ヲ爲シタルトキハ別ニ一表ヲ製シ本表ニ準シ繰替 高ノ欄ヲ受領高トシ戻入高ノ欄ヲ金庫ヘ拂込高トシテ之ヲ記載スヘシ
所局局	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	

歳入金領收高内譯

局所名	何年度		合計	備考
	何年度	何年度		
何何何	0	0	0	一 局所ハ歳入ノ徴收事務ヲ分掌スル局所毎ニ區分スヘシ
所局局	0	0	0	
計	0	0	0	
計	0	0	0	

明治 年度

事故金内譯書

第三號書式

職官氏名印

年 月 日

應 名

六〇一

一 本表ハ受拂上生シタル一切ノ過誤及亡失等ニ係ルモノノ内年度内結了セサルモノヲ類別シテ掲載スヘシ
 一 事故金ハ完結ニ從ヒテ報告スヘシ
 一 受入不足金、過誤拂金及亡失金ノ完結トハ、缺損補填ヲ受ケタルト否トチ問ハス追徴又ハ辨償ヲ了シタルモ
 ノ若クハ官損處分ヲ爲シタルモノヲ云フ

雜 部 金 内 譯

摘要	受 高			拂 高				残 高	備 考				
	越 高	領收高	計	還付高	貸入 振替高	何々	計						
	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	
保 險 金													
何局入札保險金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
何々々	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
豫 納 金													
何局外債利豫納金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
何々々	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
何々々	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
何々々	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

六〇〇

摘 要	金 額			備 考	
	圓	錢	厘		
<u>何 年 度 越 高</u>					
受 入 不 足 金	0			前年度金何圓ノ内何圓ハ本年度ニ於テ完結ニ付 本行ノ還	
過 誤 拂 金	0				
受 拂 上 ノ 過 剩 金	0				
亡 何	0				
々	0				
合 計	0				
<u>本 年 度 分</u>					
<u>受 入 不 足 金</u>					
爲替金何局振出何局拂何々ニ付	0			過誤拂金何圓ノ内何圓ハ受取人ヨリ返納ニ付本行 ノ還	
何	0				
計	0				
<u>過 誤 拂 金</u>					
爲替金何局振出何局拂何々ニ付	0				
何	0				
計	0				
<u>受 拂 上 ノ 過 剩 金</u>					
何 局 = 於 テ 何	0				
何	0				
計	0				

摘 要	金 額			備 考
	圓	錢	厘	
<u>亡 失 金</u>				
何局ニ於テ何々ノ際焼失	0			
何局ニ於テ何々ノ際盜難	0			
何局ニ於テ何々ノ際紛失	0			
計	0			
何	0			
計	0			
合 計	0			

印	名	氏	官	職
日	月	年		

●郵便爲替金郵便貯金郵便取立金出納計算證明規程

三十五年十一月
會檢途第六號

郵便爲替金郵便貯金郵便取立金出納計算證明規程左ノ通り定ム

郵便爲替金郵便貯金郵便取立金出納計算證明規程

第一條 郵便爲替金出納官吏及出納員ノ證明スヘキ計算書ニシテ郵便爲替金管理所及臺灣總督府民政部
通信局出納ニ係ルモノハ第一號書式他ノ各局所出納ニ係ルモノハ第二號書式ニ據ルヘシ

計算書ノ提出期限ハ年度經過後一箇月以内又交替ヲ爲シタルトキハ其交替後三十日以内トス

第二條 身元保證金ヲ納メタル分任出納官吏及出納員交替ノトキハ特ニ其計算書ヲ調製シ證明ヲ爲スコトヲ
得但此場合ニ在リテハ主任出納官吏ヲ經由スヘシ

第三條 左ノ事項ハ出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ

- 一 會計規則第八十八條ニヨリ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其金額事由
- 二 殘高ニシテ後任官吏又ハ他ニ引繼キタルモノアルトキハ其事由

第四條 出納計算書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 會計規則第九十三條ニ依レル檢定書
- 二 歳出ヨリ受入タルモノアルトキハ其事由ヲ詳記シタル明細書
- 三 歳入ヘ納付シタルモノアルトキハ其事由ヲ詳記シタル明細書

第五條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ出納計算書ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出ス
ヘシ

第六條 下検査書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 出納計算書及附屬書類ノ件名及冊數
- 二 事實ニ適合セスト認定シタル事項ノ金額及事由

第七條 審理書又答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ
附則

第八條 本規程ハ明治三十五年度分ヨリ施行ス
郵便爲替金郵便貯金出納計算證明規程ハ明治三十四年度分限り廢止ス

第一號書式

- 一 計算書ヲ受授スル者ハ其年月日ヲ本書ニ記載スヘシ
- 二 川紙ハ堅牢ナルモノヲ用ユヘシ
- 三 計算書ハ改竊塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ

第六輯 會計 第十章 會計検査

明治 年度(自月日)郵便爲替貯金取立金出納計算書						
摘 要	受 高		摘 要	拂 高		備 考
	圓	錢		圓	錢	
未交換金券交換高	0		中央金庫へ預入高	0		
中央金庫ヨリ戻入高	0		金庫へ供託高	0		
歳出ヨリ受入高	0		歳入へ納付高	0		
何々	0		何々	0		
	計			計		残高區分 <small>主任出納官吏官氏名 0 分任出納官吏官氏名 0</small>
	越高			残高		
	合計			合計		
	0			0		
	0			0		
	0			0		

身 元 保 證 金	
主任出納官吏官氏名	0 圓
分任出納官吏官氏名	0 圓

明治 年度出納計算證明候也

會計検査院長宛

年 月 日

職 官 氏 名 印

明治 年度(自月日)郵便爲替貯金取立金出納計算書																																																	
摘要		受 高		摘要		拂 高		備 考																																									
四	錢	四	錢	四	錢	四	錢																																										
過 超 金 受 領 高	0			過 超 金 納 付 高	0																																												
資 金 受 領 高	0			資 金 交 付 高	0																																												
立 替 時	0			立 換 金 還 付 高	0																																												
臨 出 計	0			臨 時 拂 計	0																																												
爲 替 振 出 高	0			爲 替 拂 渡 高	0																																												
貯 金 預 受 高	0			貯 金 拂 渡 高	0																																												
取 立 金 受 高	0			取 立 金 拂 渡 高	0																																												
何	0			何	0																																												
合 計	0			合 計	0				殘 高 區 分 主任出納官吏官氏名 0 0 0 分任出納官吏官氏名 0 0 0 出納員職官氏名 0 0 0																																								
合 越 計	0			合 殘 計	0																																												
合 越 總 計	0			合 殘 總 計	0																																												
<table border="0"> <tr> <td colspan="2">身 元 保 障 金</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主任出納官吏官氏名</td> <td></td> <td>0</td> <td>四</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>分任出納官吏官氏名</td> <td></td> <td>0</td> <td>四</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>出納員職官氏名</td> <td></td> <td>0</td> <td>四</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										身 元 保 障 金										主任出納官吏官氏名		0	四							分任出納官吏官氏名		0	四							出納員職官氏名		0	四						
身 元 保 障 金																																																	
主任出納官吏官氏名		0	四																																														
分任出納官吏官氏名		0	四																																														
出納員職官氏名		0	四																																														
明治 年度出納計算證明候也 職 官 氏 名 印 會計検査院長宛 年 月 日																																																	

●歳入歳出外現金出納證明規程

二十四年三月 會検査第二號

改正

二七年會検査二四 號、三五年五號

明治二十三年勅令第三十五號ニ據リ歳入歳出外現金出納證明規程左ノ通定ム

歳入歳出外現金出納證明規程

第一條 明治二十三年勅令第三十五號ニ據リ出納官吏ノ證明スヘキ歳入歳出外現金出納計算書ハ左ノ書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

歳入歳出外現金出納計算書ノ提出期限ハ年度經過後一箇月以内又交替ヲ爲シタルトキハ其交替後三十日以内トス

第二條 出納證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

- 一 受入金ニ對シテハ命令書又ハ決議書
- 二 仕拂金ニ對シテハ正當受取人ノ領收證書

第三條 前條ノ證憑書類ハ受入仕拂ニ大別シ計算書ニ掲クル事項毎ニ區分編纂シ其表紙ニ金額ノ合計及ヒ證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但シ一事項ノ證憑書僅少ナルモノハ合纂スルモ妨ナシ

第四條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ現金出納計算書及ヒ證憑書類ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ

第五條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 計算書及ヒ證憑書類ノ件名冊數
- 二 現金出納計算書ト出納帳簿及ヒ計算書ノ殘額ト現存額トノ符合ヲ認メタル保證但シ當該下検査官吏ニテ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得

三 (削除)

第四 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ理由及ヒ金額

四 事實ニ適合セスト認定シタル事項ノ事由金額

五 營業上不適當ト認めタル事項

第六條 會計検査院ヨリ各會社ニ對スル審理書及其報答書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ
(計算書書式ハ別ニ頒ツ) (書式略ス)

●物品出納證明規程

三十四年四月
會檢連第一號

明治二十八年會計検査院達第二號物品出納證明規程左ノ通改正ス

物品出納證明規程

第一條 物品會計規則ニ依リ物品會計官吏ノ證明スヘキ物品出納計算書ハ別記書式ニ據ルヘシ

第二條 身元保證金ヲ納メタル分任物品會計官吏交替ノトキハ特ニ其物品出納計算書ヲ調製シ證明ヲ爲スコ
トヲ得但此場合ニ在リテハ主任物品會計官吏ヲ經由スヘシ

第三條 物品出納計算書ニハ左ノ區分ニ準シ物品ノ種類若クハ所用ノ目的ニ依リ適宜類別シテ每品之ヲ列記
スヘシ但同名稱ノ品種ハ之ヲ集計スルモ妨ナシ

- 一 通常物品ニ在リテハ器具、機械、備品、消耗品、動物等ニ之ヲ區分スヘシ
- 二 作業及鐵道其他之ニ類スル部局ノ事業用物品ニ在リテハ生産品、材料素品、機械運轉用品、作業場用
備品、作業場用器具機械等ニ之ヲ區分スヘシ
- 三 造船造兵材料鐵道用品資金所屬物品其他工事材料林產物品、農工業物品ノ類ニ在リテハ地金木材穀類
等ニ之ヲ區分スヘシ

第四條 左ノ事項ハ物品出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ

一 證憑書類中他ノ計算證明上提出濟ノモノアルトキハ其事由

二 現在品ノ内地遞送中ノモノアルトキハ其數量價格及事由

三 既往年度代價收入濟ニ係ル物品ノ拂出ヲ爲シタルモノアルトキハ其數量及價格

第五條 物品出納ノ證憑トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

一 物品會計規則第六條ノ規定ニ據リタル命令書及領收證書但監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テ代用スル
コトヲ得

二 不用物品ノ賣拂ニ對シテハ品質、數量、代價、賣拂ノ年月日並代價納付濟ノ年月日及其事由ヲ詳記シ

タル當該官吏ノ證明書又ハ決議書ヲ提出スヘシ

三 亡失毀損ノ物品ニ對シテハ當該上官ノ認定アル品質、數量、價格及其亡失毀損ニ係ル事實ヲ詳記シタ
ル證明書其辨償ニ係ルモノハ尙其物品ノ數量及辨償金額ノ仕譯書ヲ提出スヘシ

四 贈與拂等ノ物品ニ對シテハ其價格事由ヲ詳記シタル證明書又ハ決議書

作業及鐵道造船造兵材料鐵道用品資金所屬ノ物品ニ對シテハ前各號書類ノ外左ノ書類ヲ提出スヘシ

一 價格ヲ評定シタルモノハ其評定價格書又年度末ニ於テ其價格ヲ改定シタルモノアルトキハ每件其事由
ヲ詳記シタル仕譯書又ハ決議書

二 不用物品ニ組換タルモノアルトキハ每件其事由ト元價格又ハ見積價格ヲ詳記シタル證明書若クハ決議
書

收入印紙及郵便切手類ニ對シテハ第一項各號書類ノ外左ノ書類ヲ提出スヘシ

一 交換渡ニ對シテハ受取人ノ領收證書但損傷汚染又ハ廢棄賣棄ニ係ル交換ニハ其事由並種類員數ヲ詳記
シタル當該上官ノ認定書ヲ添付スヘシ

二 糞漬及燒却拂ニ對シテハ事由並種類員數ヲ詳記シタル當該上官ノ認定書及立會官吏ノ證明書

前各項ノ外物品ノ種類ニ依リ特ニ明細書若クハ證憑書ヲ要スルモノハ別ニ之ヲ指定ス

第六條 前條ノ證憑書類ハ受拂ニ大別シ物品出納計算書ニ掲クル品目毎ニ其區畫ノ順次ニ依リ之ヲ編纂シ其

表紙ニ數量並價格ノ合計及證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ證憑書僅小ナルモノハ計算書ニ掲クル品目ノ順次ニ從ヒ合纂スルモ妨ケナシ

一 證憑書中數種ノ品目混合セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其表紙ニ每品目ノ數量價格合計ヲ記載スヘシ

第七條 常時出納ヲナササル倉庫若クハ貯藏所ノ物品ニシテ物品會計規則第十八條ニ依リ調査ヲ以テ證明スル場合ニ於テ前回ノ證明高ニ對シ増減異動アルモノハ其仕譯書ヲ添付スヘシ

第八條 下検査書ハ物品出納計算書毎ニ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 物品出納計算書ト物品出納簿トノ符合及其現在品ノ保證

二 事實ニ適合セスト認定シタル事項及其理由

第九條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

附 則

第十條 本規程ハ明治三十三年度分ヨリ施行ス

造幣局金銀地金及廢毀紙幣豫備並廢銷公債證書類ニ係ル出納ノ證明ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依ル

作業及鐵道物品出納證明規程、官設鐵道用品資金所屬物品出納證明規程、印紙類出納證明規程、郵便切手類出納證明規程、葉煙草專賣所葉煙草出納證明規程及明治二十八年會計検査院達第七號明治二十八年會計

検査院達第九號ハ明治三十二年度分限リ廢止ス

(別記)

明治何年度物品出納證明候也

職 官 氏 名 印

會 計 檢 査 院 長 宛

年 月 日

摘要	受之部							拂下				
	越高	元受	返納	買戻	交換	何々	計	各機渡	實		下	
	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	定價	何分	價格	
收入印紙ノ部												
收入印紙												
何々												
何々												
價格計												
郵便切手類ノ部												
切手												
何々												
何々												
價格計												
何々												
何々												
價格計												
價格合計												

之部						現在之部			備考
交換	亡失	焼却	返納	何々	計	完全	毀損	計	
枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	

○收入印紙及郵便切手類ハ本欄ヲ適用スヘシ

之 部					現 在 之 部				備 考
亡 失 損	生 産	備 蓄	何 々	計	供 出 中	貸 出	在 庫	計	
									<p>○物品會計規則第十條ノ二ニ依リ精査ヲ受ケタルモノアルトキハ摘要欄内其品目ニ「△」ヲ記號チ付スヘシ</p> <p>○分任物品會計官吏ノ出納計算ハ主任物品會計官吏ノ計算書ニ併算チ省キ分任物品會計官吏ヨリ提出シタル報告書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但該報告書ハ本計算書式ヲ準用シ受ノ部ニ主任物品會計官吏ヨリ受ノ區ヲ股クルヲ要ス</p> <p>○前項ニヨリ證明チ爲ス場合ニ於テハ主任物品會計官吏ノ計算書拂ノ部ニ分任物品會計官吏渡ノ區ヲ證明チ爲ス</p> <p>○物品ノ種類ニ依リ身元保證金ヲ各別ニ納付シタルモノアルトキハ其種類毎ニ列記スヘシ</p>

摘 要	受							
	越 高		買 入		生 産		和 生	
	數量	價 格	數量	價 格	數量	價 格	數量	價 格
<p>据 置 運 轉 資 本 之 部</p> <p>材 料 素 品</p> <p>金 屬</p> <p>何 々</p> <p>何 々</p> <p>價 格 計</p> <p>何 々</p> <p>何 々</p> <p>價 格 計</p> <p>價 格 合 計</p>								
<p>固 定 資 本 之 部</p> <p>(受取運轉資本ノ例ニ依ル)</p> <p>資 本 外 之 部</p> <p>(受取運轉資本ノ例ニ依ル)</p> <p>葉 煙 草 之 部</p> <p>葉 煙 草</p> <p>收 納 煙 草</p> <p>輸 入 煙 草</p> <p>貨 斤</p> <p>價 格 計</p>								

明治何年度
物品出納計算書

一 計算書は授受スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 二 物品會算ニ係ル年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 三 其取用ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 四 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 五 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 六 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 七 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 八 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 九 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 十 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 十一 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 十二 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 十三 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 十四 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 十五 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 十六 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 十七 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 十八 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 十九 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 二十 計算書ハ其年ハ其月日ヲ表紙ニ記載スヘシ

冊 何 憑 書 證
 何 々 〃

應 名

摘要	受 之 部						拂		
	越高	買入	生産	繰上	繰下	何々	計	消耗	貸拂
備 品									
何 々									
何 々									
消 耗 品									
何 々									
何 々									
醫 療 用 器 械 (110) (111)									
何 々									
何 々									
何 々									
何 々									
何 々									
身元保証金									
主任物品會計官官民名 0.90									
主任物品會計官官民名 0.90									

第七輯 居留民團

第七輯 居留民團

●居留民團法

三十八年三月
法律第四十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル居留民團法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

居留民團法

第一條 專管居留地、各國居留地、雜居地其ノ他ニ住居スル帝國臣民ノ狀態ニ依リ外務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ地區ヲ定メ其地區内ニ住居スル帝國臣民ヲ以テ組成スル居留民團ヲ設立スルコトヲ得

居留民團ノ廢置分合又ハ其ノ地區ノ變更ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 居留民團ハ法人トシ官ノ監督ヲ受ケ法令又ハ條約ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務及法令、條約又ハ慣例ニ依リ之ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 居留民團ニ吏員及居留民會ヲ置ク

第四條 居留民會ノ組織、居留民團吏員又ハ居留民會議員ノ任免、選舉、任期、給與及職務權限等ニ關スル事項並居留民團ノ財產、負債、營造物、經費ノ賦課徵收及會計ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 居留民團ハ領事、公使及外務大臣順次ニ之ヲ監督ス但シ土地ノ情況ニ依リ第二次ノ監督ヲ省略スルコトヲ得

前項監督ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 居留民團設立ノ際其ノ地區内ニ住居スル帝國臣民ノ共同財產及負債ノ處分其ノ他本法施行ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●居留民團法施行規則

三十九年七月 改正 四一年 四一年 二二號

六三〇

居留民團法施行規則左ノ通定ム

居留民團法施行規則

第一章 總 則

第一條 居留民團ノ廢置分合又ハ其ノ地區並名稱ノ變更ハ統監之ヲ定ム

前項ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ關係居留民會又ハ之ニ準スヘキモノノ意見ヲ徵シ理事官之ヲ定ム

第二條 居留民團ノ地區内ニ住居スル者ハ其ノ居留民トス

居留民ハ居留民團ノ財產及營造物ヲ使用スル權利ヲ有シ其ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第三條 居留民團ハ法令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區内ニ住居スル外國人ヲ保護スル義務ヲ負フ

第四條 居留民團ハ居留民ノ權利義務及居留民團ノ事務ニ關シ居留民團規則ヲ設クルコトヲ得

第二章 居留民團吏員

第五條 居留民團ニ民長一名ヲ置ク

民長ハ統監之ヲ任免ス

第六條 民長ハ居留民團ヲ統轄シ之ヲ代表シ及其ノ行政事務ヲ擔任ス

第七條 民長ハ居留民團吏員ヲ指揮監督シ及之ニ對シ懲戒ヲ行フ其ノ懲戒處分ハ十圓以下ノ過怠金及譴責トス

第八條 居留民團ニ助役及會計役各一名ヲ置ク但シ居留民團規則ヲ以テ之ヲ置カサルコトヲ得

助役及會計役ノ任期ハ三箇年トス

助役及會計役ハ民長ノ推薦ニ依リ居留民會之ヲ選定シ理事官ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 助役ハ民長ヲ補助シ民長事故アルトキ之ヲ代理ス

第十條 會計役ハ居留民團ノ會計事務ヲ掌ル

會計役ヲ置カサル居留民團ニ在リテハ前項ノ事務ハ理事官ノ定ムル所ニ依リ民長、助役又ハ書記之ヲ兼掌

ス

第十一條 居留民會ハ會計役又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ會計事務ヲ掌ル者事故アルトキ之ヲ代理スヘキ吏

員ヲ選定シ理事官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 居留民團ニ書記ヲ置キ民長之ヲ任免ス

書記ノ定數ハ居留民團規則ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 書記ハ民長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

助役ヲ置カサル居留民團ニ於テ民長事故アルトキハ會計役、會計役ナキトキハ首席書記之ヲ代理ス

第十四條 居留民團吏員ハ有給トス但シ官吏ニシテ民長ニ任命セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三章 居 留 民 會

第十五條 居留民會議員ノ定數ハ八人以上二十四人以下ニ於テ理事官之ヲ定ム

第十六條 居留民ニシテ公權ヲ有スル滿二十五年以上ノ男子一年以來其居留民團稅年額五圓以上ヲ納ムル者

ハ選舉權ヲ有ス但シ禁治產者及準禁治產者ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 選舉權ヲ有スル居留民ハ被選舉權ヲ有ス但シ左ニ掲クル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 理事廳ノ官吏及居留民團吏員

二 神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師

三 學校教員

第十八條 居留民會議員ハ名譽職トス

居留民會議員ノ任期ハ二箇年トス

第十九條 民長ハ選舉ノ期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ニ登錄セラレサル者及登錄セラレタルモ選舉權ヲ有セサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス
選舉人名簿調製後ニ於テ選舉ノ期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用フ

第二十条 民長ハ選舉ノ期日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉會場、投票ノ日時及議員數ヲ告示スヘシ

民長ハ選舉事務ヲ統轄シ及選舉會場ノ取締ニ任ス

第二十一条 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ投票ニハ議員定數ノ二分ノ一ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シ選舉人自ラ
民長ニ之ヲ差出スヘシ

投票ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

投票用紙ハ一定ノ式ニ依リ民長之ヲ調製シ及配付スヘシ

第二十二条 居留民會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ當選者トス但シ其ノ得票ノ數五票ヲ下ルコ
トヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ民長抽籤シ
テ之ヲ定ム

民長ハ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者其ノ當選ヲ辭セントスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ民長ニ之ヲ申立ツヘシ

當選者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ第一項及第二項ノ規定ニ依リ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ム

第二十三条 民長ハ選舉錄ヲ調製スヘシ

選舉ヲ終リタルトキハ民長ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ理事官ニ報告スヘシ

第二十四条 居留民會議員中關員ヲ生シ其ノ關員ノ數議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキハ補闕選舉ヲ
行フ

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第二十五条 居留民會ハ民長ノ提出スル議案ヲ議決ス

左ノ事項ハ居留民會ノ議決ニ付ス

- 一 居留民團規則
- 二 居留民團費ヲ以テ支辨スヘキ事業
- 三 歳入出豫算
- 四 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外義務ノ負擔及權利ノ拋棄
- 五 財産及營造物ノ管理方法
- 六 不動産ノ取得及處分
- 七 基本財産及積立金ノ設置及處分
- 八 居留民團ニ係ル訴訟及和解

第二十六条 居留民會ハ議員中ヨリ議長一名ヲ選舉スヘシ

議長事故アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第二十七条 議長ハ會議ヲ統轄シ議場ノ取締ニ任ス

第二十八条 居留民會ハ民長之ヲ召集シ及開閉ス

召集及會議ノ事項ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ居留民會議員ニ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合
ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九条 居留民會成立セス、召集ニ應セス又ハ會議規則ノ規定ニ依リ會議ヲ開クコト能ハサルトキハ民
長ハ理事官ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得居留民會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議
決セサルトキ亦同シ

居留民會ノ議決スヘキ事件ニ關シ其ノ閉會中ニ於テ臨時急施ヲ要スルモノアルトキハ民長ハ之ヲ專決處分
スルコトヲ得

前二項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ居留民會ニ報告スヘシ

第二項ノ處分ニ付異議アルトキハ居留民會ハ理事官ニ之ヲ申立ツルコトヲ得

第二十條 居留民會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ理事官ノ認可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ其ノ規則ニ違反スル議員ニ對シ居留民會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ五日以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第四章 財産及收入

第三十一條 居留民會ハ不動産又ハ積立金ヲ以テ基本財産ヲ設置スヘシ

第三十二條 居留民會ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 居留民會ハ居留民團稅、使用料、手数料及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第三十四條 居留民ニ非スト雖居留民團ノ地區内ニ於テ土地、家屋、物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業ヲ爲シ又ハ特定ノ行為ヲ爲ス者ハ其ノ土地、家屋、物件、營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行為ニ對シテ賦課スル居留民團稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ

第三十五條 數箇人又ハ居留民團ノ地區内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ特別ノ負擔ヲ爲サシメ又ハ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 居留民團稅、使用料、手数料、過料、過怠金其ノ他居留民團ノ公課ヲ定期内ニ納付セサル者アルトキハ民長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ納付セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分ス

前項ノ場合ニ於テ國稅徵收法第三十二條ニ當ル者ハ一年以下ノ輕禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

民長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ居留民會ノ議決ヲ經ヘシ

民長ハ特別ノ事情アル者ニ限り居留民會ノ議決ヲ經テ居留民團稅ヲ減免スルコトヲ得

第三十七條 本則ニ依ル徵收金ノ追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第三十八條 居留民團稅、使用料、手数料及營造物又ハ財産ノ使用方法ニ關スル事項ハ居留民團規則ヲ以テ之ヲ定ム其ノ規則ニハ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

民長ハ過料ニ處シ及之ヲ徵收ス其ノ處分ニ異議アル者ハ理事官ニ之ヲ申立ツルコトヲ得

第三十九條 居留民團稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ納稅告知書交付ノ日ヨリ二箇月以内ニ民長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

使用料、手数料若ハ夫役現品ノ賦課及財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ民長ニ之ヲ申立ツルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ民長ノ爲シタル決定ニ異議アル者ハ理事官ニ之ヲ申立ツルコトヲ得

第四十條 居留民會ハ居留民會ノ議決ヲ經テ居留民團債ヲ起スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ同時ニ起債ノ方法、利率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

第五章 豫算及決算

第四十一條 歲入出豫算ハ民長之ヲ調製シ會計年度開始ノ日ヨリ少トモ一箇月前ニ之ヲ居留民會ニ提出スヘシ

民長ハ居留民會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

居留民團ハ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ居留民會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得

居留民團ハ繼續費ヲ設クルコトヲ得

居留民團ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

豫算ノ要領ハ之ヲ告示スヘシ

第四十二條 會計役ハ民長ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又民長ノ命令アルモ支出ノ豫算ナキトキ又ハ豫備費支出其ノ他財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ會計役ノ事務ヲ兼掌スル吏員ニ之ヲ準用ス

第四十三條 居留民團ノ出納ハ毎會計年度四回以上検査ヲ爲スヘシ

前項ノ検査ハ居留民會ニ於テ互選シタル二名以上ノ委員之ヲ行フ

第四十四條 決算ハ居留民會ノ認定ニ付シ其ノ認定ヲ經タルトキハ之ヲ理事官ニ報告シ及其ノ要領ヲ告示スヘシ

第四十五條 居留民團ノ會計年度、支拂金ニ關スル時效及出納閉鎖期限ハ國庫ノ例ニ依ル

第六章 居留民團行政ノ監督

第四十六條 本則ニ規定スル異議ノ申立ハ處分又ハ決定ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本則中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ理事官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第四十七條 理事官ハ居留民會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ法令若ハ會議規則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得

第四十八條 理事官ハ居留民團行政ヲ監督スル爲必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十九條 居留民團ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ理事官ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ理事官ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

第五十條 統監ハ居留民會ノ解散ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ二箇月以内ニ更ニ議員ヲ選舉スヘシ

理事官ハ期間ヲ定メ居留民會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲クル事項ハ理事官ノ認可ヲ受クヘシ

一 居留民團規則

二 居留民團費ヲ以テ支辨スヘキ事業

三 基本財産ノ設置處分及管理方法

四 特別負擔及不均一賦課ノ方法

五 第三十二條ニ依ル寄附又ハ補助

六 居留民團ノ起債及其ノ方法、利率及償還方法

七 歳入出豫算

八 繼續費

九 特別會計

十 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外義務ノ負擔及權利ノ拋棄

第五十二條 居留民團行政ニ關シ理事官ノ認可ヲ要スル事項ニ付テハ理事官ハ申請ノ趣旨ニ反セサル範圍内ニ於テ之ヲ更正シテ認可スルコトヲ得

第五十三條 理事官ハ居留民團吏員ニ對シ懲戒ヲ行フ其ノ懲戒處分ハ解職、二十五圓以下ノ過怠金又ハ譴責トス但シ民長ニ對スル解職ハ統監之ヲ行フ

附則

第五十四條 居留民團設立ノ場合ニ於テ理事官ハ助役及會計役ノ選任アル迄臨時ニ其ノ代理ヲ命ス

第五十五條 居留民團設立ノ場合ニ於テ居留民會ノ議決スヘキ事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其成立ニ至ル迄理事官ノ認可ヲ得テ民長之ヲ行フ

第五十六條 居留民團ハ其ノ設立ノ日ヨリ二箇月以内ニ居留民會議員ノ選舉ヲ行フハシ此ノ場合ニ於ケル選舉人及被選舉人ノ資格ニ付テハ第十六條及第十七條ノ規定ヲ準用ス

第五十七條 居留民團設立前居留民團體ニ於テ有シタル一切ノ權利義務ハ之ヲ居留民團ニ承繼シタルモノト看做ス

第五十八條 居留民團設立前居留民團體ニ於テ定メタル豫算アルトキハ居留民團ハ理事官ノ認可ヲ得テ當該會計年度限リ其ノ豫算ニ依ルコトヲ得

第五十九條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (四十一年統令第三三號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ民長タル者ハ從來ノ規定ニ依リ任期ノ終了スル迄其ノ職ニ在ルモノトス

●居留民團法施行規則實施心得

三十九年七月 改正 四二年 統訓第十五號 統訓一號

理事 廳

居留民團法施行規則實施心得左ノ通定ム

居留民團法施行規則實施心得

第一條 居留民團規則ノ公告式ハ居留民會ニ於テ之ヲ定メシムヘシ

第二條 居留民團ニ非サル團體ニ於テハ民長、居留民會ノ名稱ヲ用キシムヘカラス

第三條 居留民團ノ處務規程ハ民長ヲシテ之ヲ定メシメ理事官之ヲ認可スヘシ

第四條 居留民團吏員及居留民會議員ノ給與ニ關スル事項ハ居留民團規則ヲ以テ之ヲ定メシムヘシ

第五條 居留民團ニ於テ吏員ノ退職料、退職給與金、死亡給與金及遺族扶助料ヲ設クルトキハ之ニ關スル事項ハ居留民團規則ヲ以テ之ヲ定メシムヘシ

第六條 居留民團ニ於テ居留民團規則ニ依ラスシテ吏員又ハ其ノ退職者ニ對シ賞與、慰勞其ノ他特別ノ給與ヲ爲サントスルトキハ理事官ノ認可ヲ受ケシムヘシ

第七條 居留民會議員ノ定數ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムヘシ

- 一 人口二萬以上ノ居留民團 議員 二十四人
- 二 人口一萬以上ノ居留民團 議員 二十人
- 三 人口五千以上ノ居留民團 議員 十六人
- 四 人口一千五百以上ノ居留民團 議員 十二人
- 五 人口一千五百未満ノ居留民團 議員 八人

第八條 居留民團法施行規則第三十八條ニ依リ發布スヘキ居留民團規則中ニ規定スル過料ノ額ハ其ノ居留民

團稅ニ關スルモノニ在リテハ二十五圓以下トシ其ノ他ノモノニ在リテハ五圓以下トス

第九條 居留民團ノ豫算ハ成ルヘク別紙ノ形式ニ依ラシムヘシ

第十條 居留民團ノ會計検査ハ每會計年度四回定期ニ検査ヲ行ハシメ尙必要アルトキハ臨時検査ヲ行ハシム

第十一條 居留民團法施行規則ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付シ民長ヲ經由シテ

之ヲ申立人ニ交付スヘシ

第十二條 理事官ハ居留民團稅、使用料及手数料ノ賦課徵收ニ關スル居留民團規則及第五十一條第二號、第

四號、第六號ノ認可ヲ爲サントスルトキハ豫メ統監ニ經伺スヘシ

第十三條 理事官ハ左ニ掲クル認可其ノ他處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ統監ニ報告スヘシ

一 助役及會計役ヲ認可シタルトキ

二 議決又ハ選舉ヲ取消シタルトキ

三 居留民會議員ノ定數ヲ定メタルトキ

四 居留民團稅ノ種目及其ノ賦課徵收ノ方法ヲ認可シタルトキ

五 居留民會ノ停會ヲ命シタルトキ

六 基本財産ノ設置及處分ヲ認可シタルトキ

七 居留民團法施行規則第五十一條ニ依リ認可ヲ爲シタルトキ

第七輯 居留民團

六三九

第十四條 左ノ事項ハ之ヲ統監ニ報告スヘシ

- 一 民長、助役及會計役ノ退任
- 二 居留民會議員ノ氏名
- 三 居留民團ノ決算

第十五條 理事官ハ居留民團吏員ノ服務規律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ヲ設クヘシ

(別紙第一號)

明治何年度何居留民團歳入出總計豫算

歳入

一金

經常部豫算高

一金

臨時部豫算高

合計金

歳出

一金

經常部豫算高

一金

臨時部豫算高

合計金

歳入出差引殘金

(別紙第二號)

明治何年度何居留民團歳入出豫算表

歳入

經常部

科 目	本年度 豫算額	前年度 豫算額	比 較		備 考
			增	減	
第一款 居留民團稅					
第一項 戶別稅					何等何人何程
第一目 戶地稅					宅地 何等 何坪 何程
第二項 土地稅					畑地 何等 何坪 何程
第一目 土地稅					
第三項 家屋稅					
第一目 家屋稅					前例ニ準ス
第四項 營業稅					
第一目 商業稅					同上
第二目 工業稅					同上
第三目 何稅					同上
第五項 何稅					同上
第一目 何稅					同上
第六項 雜種稅					同上
第一目 何稅					同上
第二目 何稅					同上
第二款 使用料及手數料					

第七科 居留民團

第一項 使用料

第一目 道路使用料

第二目 公園使用料

第三目 學校授業料

第四目 幼稚園保育料

第五目 病院收入

第六目 傳染病院收入

第七目 水道收入

第八目 墓地使用料

第九目 火葬場使用料

第十目 屠宰場使用料

第十一目 何 何

第二項 手 數 料

第一目 證明手數料

電柱 何本 何程
 何何 何何
 茶店 何軒 何程
 何何 何何
 小學校授業料 何人 何程
 何學校、、、
 前例ニ準ス
 藥價 何程
 入院料 患者何人、
 診察料 何回、
 手術料 、、、
 前例ニ準ス
 放任給水 何程
 計量給水 何々
 何何
 幾坪(平方尺)一坪(平方尺)何程
 何何
 牛何頭何程一頭何程
 何何
 何々證明手數料 何件 何程
 何、、、、、

第二目 督促手數料

第三目 閱覽手數料

第四目 膳本下付手數料

第五目 土地家屋丈量手數料

第六目 何 何

第三款 財產收入

第二項 不動產收入

第一目 貸地料

第二目 貸家料

第三目 何 何

第二項 動產收入

第一目 公債利子

第二目 株券利子

第三目 預金利子

第四目 何 何

第四款 雜 收 入

第一項 物品賣拂代

民團稅滯納督促手數料 何件何程
 何、、、、、
 何、、、、、何件 何程
 何々
 何々
 何々
 某所宅地何坪何程一坪一箇月(年)何程
 何々、、、、、
 前例ニ準ス
 同上
 何種公債額面何程一箇年分利子何程
 何々、、、、、
 前例ニ準ス
 同上
 同上

第一目 不用品賣拂代	何々	何々	何々	何々	何々
第二目 何	何々	何々	何々	何々	何々
第二項 過年度收入	何	何	何	何	何
第一目 過年度收入	何	何	何	何	何
第三項 地所家屋轉貸收入	何	何	何	何	何
第一目 地所轉貸料	何	何	何	何	何
第二目 家屋轉貸料	何	何	何	何	何
第四項 何	何	何	何	何	何
第一目 何	何	何	何	何	何
第五項 豫知スヘカラナル收入	何	何	何	何	何
第一目 豫知スヘカラナル收入	何	何	何	何	何
小計	何	何	何	何	何

臨時部

科	目	本年度 豫算額	前年度 豫算額	比 較	備 考
第一款 繰越金					

第二項 前年度繰越金	何	何	何	何	何
第一目 前年度繰越金	何	何	何	何	何
第二款 寄附金	何	何	何	何	何
第一項 某費寄附金	何	何	何	何	何
第一目 某費ノ内某費ニ對スル寄附金	何	何	何	何	何
第二目 何	何	何	何	何	何
第二項 何	何	何	何	何	何
第一目 何	何	何	何	何	何
第三款 補助金	何	何	何	何	何
第一項 某費補助金	何	何	何	何	何
第一目 國庫補助金	何	何	何	何	何
第二項 某費補助金	何	何	何	何	何
第一目 何	何	何	何	何	何
第四款 財産賣却代	何	何	何	何	何
第一項 不動産	何	何	何	何	何
第一目 土地	何	何	何	何	何
第二目 家屋	何	何	何	何	何
第三目 何	何	何	何	何	何
第二項 動産	何	何	何	何	何

某所宅地何坪何程 一坪何程
何、
前例ニ準ス
同上

第一目 公債證書	何何
第二目 何	何何
第五款 何	何何
第一項 何	何何
第一目 何	何何
第六款 居留民團債	何何
第一項 居留民團債	何何
第一目 居留民團債	何何
小計	何何
合計	何何

歲出
經常部

科 目	本年度		前年度		備 考
	豫算額	實際額	豫算額	實際額	
第一款 役所費					
第一項 俸給					同 年俸
第一目 民長俸給					同 年俸
第二目 助役俸給					同 年俸
第三目 會計役俸給					同 年俸

第四目 書記俸給	何人月給平均何程
第二項 雜給	
第一目 旅費	出張旅費 何程 赴任旅費 何程
第二目 報酬及手當	技術員何人平均一人月額(年額)何程 囑託醫、 何何、 何人平均一人月額何程 監督何人平均一人月額何程 巡視、 民長交際手當
三 掃除監視員給	民長月額何程
四 交際手當	助役、 何何、
五 舍宅料	外勤手當何人平均月額何程 時間外勤務手當何程 何何、 年末慰勞金何程 何何、
六 特別手當	銀行員手當
七 慰勞手當	退隱料 何程 退職給與金 何程 死亡給與金 何程
八 現金取扱費	
第三目 退隱料、退職及死亡給與金	

第七輯 居留民團

第四目 備人料	第三項 需用費	第一目 備品費	第二目 消耗品費	第三目 圖書及印刷費	第四目 通信運搬費	第五目 公告費	第六目 賄費	第七目 被服費	第八目 雜費
---------	---------	---------	----------	------------	-----------	---------	--------	---------	--------

給任何人何程平均一人月額何程
 小使、、、
 臨時備人延何人何程平均一人何程
 何何 何程
 何何 何程
 諸用紙代何程
 文具料、、
 薪炭油電燈料、、
 何何
 圖書費 何程
 帳簿費、、
 諸印刷代、、
 郵便電信料何程
 電話使用料、、
 同工事費、、
 運搬費、、
 新聞揭載料何程
 揭示諸費 何程
 宿直賄料延何日分何程平均一日何程
 夜勤賄料、、
 何何何人分何程平均一著(枚)何程
 何何、、、
 借地料何程
 借家料何程
 翻譯及謄寫料、、
 船車馬備賃、、
 何何、、

第四項 修繕費	第一目 修繕費	第二款 會議費	第一項 雜給	第一目 議員實費辨償額	第二目 書記手當	第三目 給仕小使手當	第二項 需用費	第一目 備品費	第二目 消耗品費	第三目 圖書及印刷費	第四目 雜費	第三款 土木費	第一項 道路橋梁費	第一目 道路修繕費	第二目 橋梁修繕費	第三目 街燈費	第四目 何何
---------	---------	---------	--------	-------------	----------	------------	---------	---------	----------	------------	--------	---------	-----------	-----------	-----------	---------	--------

役所修繕費何程
 吏員舍宅修繕費、、
 何何、、
 何人延何日分一人一日何程
 何人平均一人月額何程
 前例二準、
 前例二準、
 同上
 同上
 同上
 延長何間平均一間何程
 何箇所平均一箇所何程
 燈點何箇所 何程
 修繕費 何何
 何何

第五目 雜費	何何
第二項 治水堤防費	何何
第一目 河岸修繕費	延長何間平均一間何程
第二目 堤防修繕費	何何
第三目 溝渠修繕費	何何
第四目 何	何何
第五目 雜費	何何
第三項 何	何何
第一目 何	何何
第四款 教育費	何何
第一項 小學校費	正教員給何人何程平均一人月俸何程
第一目 俸給	准教員給何何、、、
第二目 雜給	出張旅費何程
一 旅費	赴任旅費何程
二 報酬及手當	何何囑託報酬(前例ニ準ス)
	學校醫手當、、
	教員手當、、
	舍宅料、、
	年末慰勞金、、
	何何、、

第三目 備人料	給仕(前例ニ準ス)
一 圖書器械費	小使、、
二 備品費	臨時備人、、
三 消耗品費	前例ニ準ス
四 通信運搬費	同上
五 賄費	同上
六 式日及運動會費	三大節祝賀式何程
七 何	學校紀念式、、
八 雜費	卒業式、、
第四目 修繕費	運動會、、
第二項 幼稚園	何何、、
第一目 俸給	印刷費何程
第二目 雜給	被服費、、
第三目 需用費	廣告料、、
	借地料、、
	借家料、、
	何何、、
	前例ニ準ス
	前例ニ準ス
	前例ニ準ス
	同上

第四目	修繕費	同上
第三項	何學校費	校長何程 何何何人何程平均一人月額(年額) 何何何人何程平均一人月額何程 書記何人何程平均一人月額何程
第一目	俸給	前例ニ準ス
第二目	雜給	同上
一	旅費	同上
二	報酬及手當	同上
三	備用人料	同上
第三目	需用費	前例ニ準ス
一	圖書器械費	同上
二	備品費	同上
三	消耗品費	同上
四	通信運搬費	同上
五	賄及運動會費	同上
六	式日及運動會費	同上
七	何費	同上
八	雜費	同上
第四目	修繕費	前例ニ準ス
第五款	勸業費	
第一項	林業費	

第一目	殖林費	何何何程
第二目	何何何	何何何
第一項	何何何	何何何
第六款	衛生	
第一項	病院	院長給月俸(年俸)何程 醫員給何人(、)、(、)、(、)平均一人何程 調劑員給、 看護婦給、 看、
第一目	俸給	前例ニ準ス
第二目	雜給	同上
一	旅費	同上
二	諸人手當	同上
三	備用人料	前例ニ準ス
第三目	需用費	同上
一	器具器械費	同上
二	消耗品費	何何
三	何費	前例ニ準ス
四	雜費	同上
第四目	忠者費	何何何程
第五目	修繕費	何何何程

第二項 傳染病院費	第一目 體給	第二目 雜給	第三目 需用費	第四目 患者費	第五目 修繕費	第三項 傳染病豫防費	第一目 雜給	第二目 需用費	一 器具器械費	二 藥品費	三 何費	四 雜費	第三目 痘種費	第四項 驅微費	第一目 雜給	第二目 需用費	第五項 汚物掃除費	第一目 雜給
-----------	--------	--------	---------	---------	---------	------------	--------	---------	---------	-------	------	------	---------	---------	--------	---------	-----------	--------

前例ニ準ス	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	豫防事務員特別手當何程 何人何人何人何人何人何人 何人何人何人何人何人何人 何人何人何人何人何人何人	前例ニ準ス	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	痘苗代何程 何何	前例ニ準ス	同 上	慶芥運搬人夫賃延何人何程一人何程 何何
-------	-----	-----	-----	-----	-----	---	-------	-----	-----	-----	-----	-----	-------------	-------	-----	------------------------

第二目 需用費	一 器具器械費	二 雜費	第三目 何費	第六項 屠畜場費	第一目 雜給	第二目 需用費	第三目 修繕費	第七項 何費	第一目 何費	第七款 救助費	第一項 救助費	第一目 窮民救助費	第二目 罹災者救護費	第三目 行路病人諸費	第八款 警備費	第一項 消防費
---------	---------	------	--------	----------	--------	---------	---------	--------	--------	---------	---------	-----------	------------	------------	---------	---------

前例ニ準ス	同 上	何何	前例ニ準ス	同 上	同 上	一人何程 一人何程	一人何程 一人何程	何何	何何	何何	何何	何何	何何	何何	何何	消防月(年)手當何人何程平均一人何程 出場及演習手當
-------	-----	----	-------	-----	-----	--------------	--------------	----	----	----	----	----	----	----	----	-------------------------------

第一目 雜給	第二目 需用費	一 器具器械費	二 被服費	三 賄料	四 雜費	第三目 修繕費	第二項 何	第一目 何	第九款 公園	第一項 雜給	第一目 備人料	第二目 何	第二項 修繕費	第一目 修繕費	第三項 雜費	第一目 雜費	第十款 墓地及火葬場費
--------	---------	---------	-------	------	------	---------	-------	-------	--------	--------	---------	-------	---------	---------	--------	--------	-------------

弔祭料何程
遺族扶助料何程
療治料何程
前例ニ準ス
同上
同上
同上
前例ニ準ス
何何
園丁給何人何程平均一人何程
臨時備人延何人何程一人何程
何何
樹木植繼費何程
何何
點燈料何程
何何

第二項 墓地費	第一目 雜給	第二目 修繕費	第三目 雜費	第二項 火葬場費	第一目 雜給	第二目 需用費	第三目 修繕費	第十一款 租稅及負擔	第一項 租稅及負擔	第一目 租稅	第二目 負擔	第十二款 借地料
---------	--------	---------	--------	----------	--------	---------	---------	------------	-----------	--------	--------	----------

看守人給何人何程平均一人何程
備人料延何人何程一人何程
前例ニ準ス
同上
前例ニ準ス
器具器械費何程
何何何程
消耗品費何程
何何何程
雜費何程
何何何程
前例ニ準ス
地租何程
地稅何程
家屋稅何程
何何

第一項	借地料
第一目	借地料
第十三款	財產管理費
第一項	維持費
第一目	維持費
第二項	雜費
第二目	雜費
第十四款	基本財產編入金
第一項	基本財產編入金
第一目	普通基本財產編入金
第二目	教育基本財產編入金
第十五款	接待費
第一項	接待費
第一目	接待費
第十六款	雜支費
第一項	神社費
第一目	神饌幣帛料
第二目	修繕費

某所某(借入先)何坪一坪一箇月(年)何程

前例ニ準ス

同上

前例ニ準ス

蓄積金何程

何何

何何

何何

何何

前例ニ準ス

臨時部

第三目	何
第四目	雜費
第二項	拂戻金
第一目	過年度過誤納拂戻金
第三項	保險費
第一目	火災保險料
第二目	何
第四項	午砲
第一目	雜給
第二目	雜費
第五項	何
第一目	何
第十七款	豫備費
第一項	豫備費
第一目	豫備費
小計	計

何何

前例ニ準ス

何何

何何

何何

何何

砲手手當、何程

何何

火藥及雷管代何程

何何

科	目	本年度豫算額	前年度豫算額	比	較	備	考
第一款	土木費			增	減		

第七輯 居留民團

第一項 道路橋梁費	第一目 道路新開費	延長何間何程平均一間何程 前例ニ準ス
	第二目 橋梁新架費	
第二項 何道新開費本年 度支出額		
第一目 何道新開費本 年度支出額	何何	
第二款 寄附及補助金		
第一項 寄附金	何何	
第二項 補助金	何何	
第三款 居留民團債費		
第一項 居留民團債費	元金何程ノ内何程 同上、	
第一目 元金	元金何程ニ對スル一年分利子何程 同上、	
第二目 利子		
合計		

注意

- 一 本表ニハ居留民團ノ事務報告書及財産明細表ヲ添附スヘシ
- 二 本表ニハ說明書ヲ添附シ各款ニ就キ前年度豫算額ニ對スル増減ノ理由ヲ記載スヘシ

- 三 各科目ノ豫算額ハ四位ニ止ム但シ四位未満ハ四捨五入スヘシ
- 四 備考欄ニハ豫算算出ノ基ク所ヲ明カラシムルヲ要ス
- 五 臨時ニ屬スル科目ハ歳入ニ於テハ民團債ノ借入、民團有財産ノ賣却代金、寄附又ハ補助金等ノ如キ毎年度經常ノ歳入ニ非サルモノハ派テ之ヲ臨時ノ歳入トシ歳出ニ於テハ學校ノ建築又ハ増築道路ノ開闢又ハ改修等ノ如キ毎年度經常ノ歳出ニ非サルモノハ派テ之ヲ臨時ノ歳出ト爲スヘキモノトス
- 六 歳入經常部第四款豫知スヘカラサル收入ニハ過念金料賠償金等ヲ編入シ歳出經常部第十二款借地料ニハ轉貸ノ目的ヲ以テ借入レタル土地ノ地代ヲ同第十三款財産管理費ニハ收益財産ニ關スルモノノミヲ編入スヘキモノトス
- 七 寄附金ノ支出ハ寄附者指定ノ費目備考欄ニ其ノ額ヲ明示スヘシ

居留民團ニ關スル名稱 三十九年七月
統訓第十七號

居留民團ニ關スル名稱左ノ通定ム

何何(地名)居留民團 何何(地名)居留民團會計役

何何(地名)居留民團役所 何何(地名)居留民團書記

何何(地名)居留民團民長 何何(地名)居留民會

何何(地名)居留民團助役 何何(地名)居留民會議員

居留民團設立 三十九年八月
統告第七十六號 改正 四〇年
統告二七號 一六號

來八月十五日左記居留民團ヲ設立ス

名 稱 地 區

京城 居留民團 京城城内一圓 敦義門(通稱西大門)及崇禮門(通稱南大門)外ニ帶ノ地域

第七輯 居留民團 六六一

弘濟院、鞍峴ノ東麓、阿峴、青坡(四契ノ一部ヲ除ク)瓦署(統監府鐵道管理局用地ヲ除ク)梨太院、典牲署及葛月里ヲ以テ其ノ境界線トス但シ其ノ各地ハ本地區ニ屬ス

興仁門(通稱東大門)外一帶ノ地域

駱山ノ東麓、紫芝洞、關羽廟(通稱東廟)往十里及大峴洞ヲ以テ其ノ境界線トス但シ其ノ各地ハ本地區ニ屬ス

仁川日本專管居留地一圓

仁川居留民團

仁川支那專管居留地一圓

仁川各國居留地一圓及其ノ境界線ヨリ十韓里以内ノ地

釜山居留民團

岩南半島ノ西方無名ノ溪流口ヨリ天馬山、九德山、新岩山ノ分水線ニ依リ新溪川ノ右岸第二支流口ニ達シ之ヨリ峰五山ヲ經テ黑崎ニ達スル分水線ヲ以テ其ノ境界トス但シ冬柏島、絶影島ハ本地區ニ屬ス

鎮南浦居留民團

鎮南浦各國居留地一圓及其ノ境界線ヨリ十韓里以内ノ地

群山居留民團

群山各國居留地一圓及其ノ境界線ヨリ十韓里以内ノ地(錦江北岸ノ地ヲ除ク)

三十九年八月
統告第八十一號

來八月十五日左記居留民團ヲ設立ス

名稱

地

區

東方 大同江東岸鰲村ノ北端ヨリ大同江岸ヲ距ル三百間ノ地ヲ限リ南方永濟橋ニ至ル

平壤居留民團

南方 永濟橋ヨリ大同江ノ右岸ニ沿ヒ大同江ト普通江トノ合流點ニ至ル
西方 上水口門外ノ道路ト義州ニ通スル國道トノ交叉點以南ハ普通江ノ左岸ヲ限リ以北ハ前記國道ヲ經テ其ノ國道ト箕子廟ノ北方玄武門ニ通スル道路トノ交叉點ニ至ル

北方 前記交叉點ヨリ玄武門ニ通スル道路ヲ經テ玄武門ニ至リ城壁ニ沿ヒ牡丹臺及綾羅島ノ北端ヲ限リ鰲村ノ北端ニ至ル

木浦居留民團

木浦各國居留地一圓及其ノ境界線ヨリ十韓里以内ノ地

三十九年八月
統告第八十六號

來九月一日左記居留民團ヲ設立ス

名稱

地

區

元山日本居留地一圓

元山居留民團

同居留地外一帶ノ地域

德源郡葛麻浦、德源邑、元山里及陽日里ヲ以テ其ノ境界線トス但シ其ノ各地ハ本地區ニ屬ス

三十九年八月
統告第九十號

來九月一日左記居留民團ヲ設立ス

名稱

地

區

第七輯 居留民團

馬山居留民團

馬山浦各國居留地一團及其ノ境界線ヨリ十韓里以內ノ地

六六四

三十九年十月
統告第百十八號

來十一月一日左記居留民團ヲ設立ス

名稱

地

區

大邱居留民團

大邱城內一團
大邱城外一帶ノ地域

琴湖江、晚村、黃青洞、東掛津、唐洞及上皇ヲ以テ其ノ境界線トス但シ其ノ各地ハ本地區ニ屬ス

四十年九月
統告第百十六號

來九月十五日左記居留民團ヲ設立ス

名稱

地

區

龍山居留民團

楊花鎮ヨリ西江、孔德里ヲ經テ京城居留民團境界線ニ接シ西水庫ニ至ル漢江右岸一帶ノ地域但シ其ノ各地ハ本地區ニ屬ス

四十一年二月
統告第百八號

來二月十五日左記居留民團ヲ設立ス

名稱

地

區

新義州居留民團

敏浦洞ノ西方無名ノ入江口ヨリ彌勒洞ノ南端ヲ經テ京義鐵道線路第二鐵橋ノ東南端ニ達シ之ヨリ東北三百間ノ地點ヲ經テ上端洞ト下端洞トノ境界線ニ接續シ同境界線ニ依リ鴨綠江ノ左岸ニ達スル線ヲ以テ其ノ境界トス但シ線內各地ハ本地區ニ屬ス

●居留民團ノ財務ニ關スル制

四十二年二月
統訓第二號

理事廳

居留民團ノ財務ニ關シテハ明治四十二年度會計ヨリ左ノ規定ニ依ラシムヘシ

居留民團ノ財務ニ關スル件

- 第一條 居留民團ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度八月三十一日マテニ完整スヘシ
- 第二條 居留民團稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編入スヘシ
- 第三條 各年度ニ於テ決定シタル歲入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歲出ニ充ツルコトヲ得ス但シ會計年度經過後ニ至リ歲入ニ不足ヲ生シ歲出ニ充ツルニ足ラサルトキハ翌年度ノ歲入ヲ以テ之ニ充用スルコトヲ得
- 第四條 豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス
- 第五條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルモノトス
- 第六條 接待費ハ理事官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ豫備費ヨリ補充スルコトヲ得ス
- 第七條 豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各款ノ金額ヲ彼是流用スルコトヲ得ス
- 第八條 仕拂命令ニハ債主若ハ其ノ代理人ノ氏名、仕拂フヘキ金額、支出科目及年度ヲ記載スヘシ
- 第九條 決算ハ翌年度九月三十日マテニ居留民會ニ提出スヘシ

決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ付スヘシ

第七輯 居留民團

六六五

第十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ

第十一條 繼續費ハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終リマテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第十二條 歳入ノ誤納過納トナリタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ仕拂フヘシ

歳出ノ誤拂過渡トナリタル金額ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第十三條 出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ

第十四條 出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ

第十五條 工事ノ執行及物件ノ賣買貸借ニ關スル規定ハ居留民團規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

特別會計ニ關スル歳入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第十六條 居留民團ニハ左ノ簿冊ヲ備フヘシ

- 歳入整理簿
- 歳出整理簿
- 歳入出外金整理簿
- 現金出納簿
- 民團債整理簿
- 民團稅徵收原簿
- 財產臺帳
- 器具器械及備品臺帳
- 消耗品受拂簿

第十條 各年度之於歲計之剩餘額，由本署，現年度之歲入之額入之。

第十一條 本署之於各年度之仕務之額，由前年度之終止時之仕務之額，得

第十二條 歲入之額，由前年度之仕務之額，得算出之。其額，由本署，得算出之。

歲出之額，由前年度之仕務之額，得算出之。其額，由本署，得算出之。

第十三條 出納開支簿，收入支出之額，現年度之歲入之額，得算出之。

第十四條 本署，執行及會計之會計之簿，由本署，得算出之。其額，由本署，得算出之。

第十五條 特別會計之會計，由本署，得算出之。其額，由本署，得算出之。

特別會計之會計，由本署，得算出之。其額，由本署，得算出之。

第十六條 居留民團，由本署，得算出之。其額，由本署，得算出之。

歲入	整理簿	出整理簿	出入整理簿
現金	出納簿	民間債整理簿	民間債整理簿
財產	表	器具器械及備品表	器具器械及備品表

第八輯 警察

第八輯 警察

居留規則

四十一年十月
統令第四十五號

居留規則左ノ通定ム

居留規則

第一條 居留民ハ住居ノ日ヨリ二十日以内ニ左ノ事項ヲ記載シ所轄理事官ニ届出ツヘシ

一 氏名

二 生年月日

三 居留ノ場所

四 本籍及族稱

五 職業

六 戸主非戸主ノ別(非戸主ニ在リテハ戸主トノ權柄)

七 同居スル家族ノ氏名生年月日及職業

前項各號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ届出ツヘシ出生、死亡、失踪、國籍ノ喪失アリタルトキ亦同シ

第二條 住居地ヲ退去スルトキハ豫メ其ノ行先ヲ明記シ所轄理事官ニ届出ツヘシ

第三條 前二條ノ届出ハ單身者ニ在リテハ本人、家族携帶者ニ在リテハ戸主若ハ主宰者ヨリ之ヲ爲スヘシ但シ單身者ニシテ死亡シ又ハ失踪シタルトキハ同居者又ハ家主若ハ地主其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ二十日以内ニ届出ツヘシ

第四條 居留民團地區内ニ居住スル居留民ニシテ本則ニ依リ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ居留民團役所ヲ經由ス

（シ）

第五條 第一條及第二條ノ届出ヲ爲ササル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第六條 本則ハ明治四十一年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 本則施行ノ際現ニ居留スル者ニ付テハ第一條第一項ノ届出期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本則施行前領事館令又ハ理事廳令ニ依リ居留ノ届出ヲ爲シタル者ニ付テハ第一條第一項ノ規定ヲ適用セス

朝鮮國在留帝國臣民取締法

二十九年四月 法律第八十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法

第一條 清國及朝鮮國駐在ノ領事ハ在留ノ帝國臣民該地方ノ安寧ヲ妨害セントシ又ハ該地方ノ風俗ヲ壞亂セ

ントスル者アルトキハ一年以上三年以下在留スルコトヲ禁止スヘシ

第二條 在留ヲ禁止セラレタル者ハ十五日以内ニ退去スヘシ若期限内退去シ難キ正當ノ理由アリテ其ノ旨ヲ申立ツルトキハ領事ハ相當ノ猶豫期限ヲ與フルコトヲ得

第三條 在留禁止ノ命令ヲ受ケタル者其ノ命令ニ對シ不服アルトキハ命令ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ領事ヲ經テ外務大臣若ハ駐節帝國公使ニ該命令取消ノ申請ヲ爲スコトヲ得

但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ命令ノ執行ヲ停止セス

第四條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ外務大臣若ハ駐節帝國公使ハ其ノ事實ヲ審査シ領事ノ命令ヲ認可シ若ハ之ヲ取消スヘキ命令ヲ爲スヘシ其ノ命令ハ確定ノモノトス

第五條 在留ヲ禁止セラレタル者營業上若ハ其ノ他ノ關係ニ於テ其ノ地ヲ去リ難キ事情アリト認ムルトキハ

領事ハ其ノ期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ得

第六條 保證金ヲ出シ在留ノ許可ヲ得タル者其ノ期限内再ヒ第一條ノ舉動アリト認定スル時ハ其ノ保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スヘシ

第七條 在留禁止ヲ命セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ領事ハ何時ニテモ職權ニ依リ又ハ所轄地方長官ノ證明ニ依リ該命令ヲ取消スコトヲ得

第八條 退去期限若ハ猶豫期限内ニ退去セサル者及禁止期限ヲ犯シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

附則

第九條 明治十六年第九號布告及明治十八年第二十六號布告ハ此ノ法律實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

保安規則

三十九年四月 統令第十號

改正 四〇年 四二年 統令三一號 一三號

保安規則左ノ通定ム

保安規則

第一條 理事官ハ一定ノ住居又ハ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論行爲ヲ事トスル者ニ對シ一定ノ期間内ニ住居ヲ定メ又ハ生業ヲ求ムルコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者ニシテ住居ヲ定メ又ハ生業ヲ求メタルトキハ之ヲ理事官ニ届出ツヘシ

第二條 辯護士又ハ理事官ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ報酬ヲ得若ハ得ヘキコトヲ約束シテ他人ノ訴訟事項ノ委託ヲ受ケ又ハ之ニ干與スルコトヲ得ス

辯護士又ハ理事官ノ許可ヲ受ケタル者ト雖妄リニ訴訟爭議ヲ勸誘教唆スルコトヲ得ス

第三條 名義ノ如何ニ拘ラス金品ノ募集ヲ爲シ又ハ團體ニ加入ヲ勸誘セントスルトキハ豫メ其ノ目的方法ヲ具シ理事官ノ認可ヲ受クヘシ

第八輯 警察

第四條 暴行脅迫又ハ詐欺ニ涉ル手段ヲ以テ他人ノ業務又ハ其ノ他ノ行爲ヲ妨害スルコトヲ得ス
第五條 暴行脅迫又ハ詐欺ニ涉ル手段ヲ以テ他人ノ行爲不行爲若ハ財物ヲ要求シ又ハ他人ノ進退意見ニ干渉スルコトヲ得ス

第六條 財物ヲ賣買シ又ハ勞力ヲ需給スルニ當リ暴行脅迫又ハ詐欺ニ涉ル手段ヲ以テ其ノ價格ヲ不當ニ増減スルコトヲ得ス

第七條 財物ノ貸借又ハ其ノ周旋ヲ爲スニ當リ利子手数料其ノ他名義ノ如何ニ拘ラス不當ノ高利又ハ報酬ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條 債務ノ辨濟ヲ受クル爲暴行脅迫又ハ詐欺ニ涉ル手段ヲ用キ若ハ身體ノ自由ヲ拘束スルコトヲ得ス
第九條 公職ヲ得ルノ周旋ヲ爲スカ爲金錢其ノ他ノ報酬ヲ受ケ又ハ受シルコトヲ約スルコトヲ得ス

第九條ノ二 理事官ハ新聞紙其ノ他印刷物ノ記事外交若クハ軍事上ノ機密ニ涉リ又ハ安寧秩序ヲ妨害スルモノト認ムルトキハ其ノ發賣頒布ヲ禁止シ之ヲ差押ヘ其ノ發行ヲ停止シ若ハ禁止スルコトヲ得
第九條ノ三 理事官ハ統監ノ命ニ依リ新聞紙ノ原稿ヲ檢閲シ前條ニ該當スル事項ノ記載ヲ禁止スルコトヲ得

第十條 正當ノ事由ナクシテ第一條第一項ノ命令ニ違犯シタル者第一條第二項又ハ第三條ニ違犯シタル者ハ三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第二條第七條又ハ第九條ニ違犯シタル者ハ六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第十二條 第四條、第五條、第六條又ハ第八條ニ違犯シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條ノ二ノ處分ニ違背シ又ハ第九條ノ三ノ檢閲ヲ受ケス若ハ禁止セラレタル事項ヲ記載シタルトキハ其ノ發行人及編輯人ノ處分亦前項ニ同シ

第十三條 本則ハ明治三十九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●新聞紙規則

四一年四月 改正 四二年 三五年
統令第十二號 統令三三號

新聞紙規則左ノ通定ム

新聞紙規則

第一條 新聞紙ヲ發行セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ發行地ヲ管轄スル理事官ノ認可ヲ受クヘシ

一 題號

二 記載ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人編輯人及印刷人ノ住所氏名年齢

編輯人二人以上アルトキハ主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ヲ記載スヘシ

認可ヲ受ケタル後第一項第一號乃至第四號ニ掲クル事項並發行人編輯人及印刷人ヲ變更セムトスルトキハ理事官ノ認可ヲ受ケ發行人編輯人及印刷人ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ發行地ノ管轄理事官ニ届出ツヘシ

ニ届出ツヘシ

第一條ノ二 發行ノ時期ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第二條 發行人及編輯人ハ印刷人ヲ兼スルコトヲ得ス

第三條 發行人編輯人及印刷人死去シ又ハ第五條第二號及第三號ニ該當スルトキハ七日以内ニ之ニ代ルヘキ者ヲ定メ理事官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受クルマテハ假擔當者ヲ定メ發行スルコトヲ得

第四條 發行ノ休止ヲ爲ストキハ豫メ其ノ期間ヲ定メ管轄理事官ニ届出ツヘシ

第五條 左ニ掲クル者ハ發行人編輯人及印刷人トナルコトヲ得ス

- 一 未成年者
 - 二 韓國内ニ居住セサル者
 - 三 公權剝奪又ハ停止中ノ者
- 第六條 發行人ハ第一條第一項ノ認可ヲ受ケタルトキハ保證トシテ左ノ金額ヲ認可書交付ト同時ニ管轄理事應ニ納付スヘシ
- 一 京城、仁川、釜山及其ノ區域外二里以内ノ地ニ於テハ二千圓
 - 二 前號ニ掲ケル以外ノ理事應所在地及其ノ區域外一里以内ノ地ニ於テハ千圓
 - 三 前二號以外ノ地ニ於テハ五百圓
 - 四 一箇月五回以下發行スルモノニ在リテハ前記各號ノ半額
- 保證金ハ時價ニ準シ前項各號ノ金額ニ相當スル公債證書ヲ以テ之ヲ代納スルコトヲ得
- 第七條 發行人編輯人又ハ印刷人本則ノ規定ニ違反シ裁判ヲ受ケ其ノ判決確定ノ日ヨリ七日以内ニ罰金及裁判費用ヲ納付セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ
- 保證金ヲ以テ罰金及裁判費用ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄理事應ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ其ノ保證金ノ缺額ヲ納付スヘシ
- 前項ノ期日内ニ保證金ノ缺額ヲ納付セサルトキハ之ヲ納付スルマテ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス
- 第八條 新聞紙ハ每號ニ發行人編輯人印刷人ノ氏名及發行所ヲ掲載スヘシ
- 第九條 發行人ハ其ノ發行シタル新聞紙ヲ統監府、管轄理事應及管轄地方裁判所檢事局ニ每號各二部ヲ納付スヘシ
- 第十條 左ノ事項ハ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得ス
- 一 日韓兩皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆セムトスル事項
 - 二 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂セムトスル事項

- 三 公ニセサル官廳ノ文書及議事ニ關スル事項
 - 四 公判ニ附セサル以前ニ於ケル重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項及傍聽ヲ禁シタル裁判ニ關スル事項
 - 五 刑事被告人又ハ犯罪人ヲ救護シ若ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ曲庇スル事項
- 第十一條 理事官ハ必要ト認ムルトキハ外交軍事及秘密ヲ要スル事項ノ掲載ヲ禁止スルコトヲ得
- 第十二條 新聞紙ニシテ第十條ノ規定又ハ第十一條ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ理事官ハ其ノ發賣頒布ヲ禁止シ之ヲ差押ヘ且ツ發行ヲ停止シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得
- 第十三條 理事官ハ韓國内ニ輸入スル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ其ノ新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得
- 第十四條 理事官ハ左ノ各號ニ該當スル新聞紙ハ之ヲ差押フヘシ
- 一 第一條第一項第三項及第三條ノ認可ヲ受ケス又ハ第一條第三項ノ届出ヲ爲サシテ發行シタルモノ
 - 二 (削除)
 - 三 保證金ノ缺額ヲ納付セスシテ發行シタルモノ
- 第十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ關シ本人又ハ關係者ヨリ取消又ハ正誤ノ爲掲載ヲ求メタル文書ハ其ノ次回若ハ第三回發行ノ紙上ニ其ノ全文ヲ掲載スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ取消書又ハ正誤書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ超過字數ニ對シ其ノ新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得
- 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ轉載若ハ抄録シタル事項ニ關シ其ノ官報又ハ新聞紙ニ取消書又ハ正誤書ノ掲載アリタルトキハ其ノ次回若ハ第三回發行ノ紙上ニ之ヲ掲載スヘシ
- 取消書又ハ正誤書ハ原文ト同號ノ活字ヲ用キ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ
- 第十六條 取消書又ハ正誤書ノ趣旨若ハ辭句ニシテ本則ニ於テ掲載ヲ禁止セラレタル事項ニ關スルトキ又ハ要求者ノ住所氏名ヲ明記セサルトキハ掲載セサルコトヲ得

第十七條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ關シ裁判ヲ受ケタルトキハ次回發行ノ新聞紙ニ判決書ノ全文ヲ掲載ス

第十八條 編輯人ノ責任ニ關スル本則ノ規定ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ準用ス

- 一 編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者
- 二 掲載ノ事項ニ署名シタル者
- 三 取消書正誤書ノ事項ニ付テハ其ノ掲載ヲ請求シタル者

發行人編輯人及印刷人ニ關スル本則ノ規定ハ第三條第二項ノ假擔當者ニ之ヲ準用ス

第十九條 第一條乃至第五條第七條第三項第八條及第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ發行人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

本則ニ依リ認可ヲ申請シ又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テ虚偽ノ事項ヲ記載シタルトキハ發行人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 (削除)

第二十一條 第十五條及第十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ發行人編輯人ヲ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第十條第一號ニ該當スル事項ヲ掲載シタルトキハ發行人編輯人印刷人ヲ三月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條第二號ニ該當シ又ハ第十一條ノ命令ニ違反スル事項ヲ掲載シタルトキハ發行人編輯人ヲ二月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ三十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十條第三號乃至第五號ニ該當スル事項ヲ掲載シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十六條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十六條 本則ノ規定ハ雜誌通信ノ類ニモ之ヲ準用ス

附則

第二十七條 本則ハ明治四十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十八條 從來發行スル新聞紙及雜誌通信ノ類ノ發行人ハ本則施行ノ日ヨリ二箇月以内ニ本則ニ定ムル手續ヲ爲スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行スル新聞紙及雜誌通信ノ類ニシテ從來ノ規定ニ依ル保證金ヲ既ニ納付シタルモノ及本年九月三十日迄ニ之ヲ納付シタルモノハ本令ニ依リ發行ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ第六條ノ保證金ハ本令施行ノ日ヨリ三箇年間ニ之ヲ填補セシム三箇年ヲ經テ尙填補セサルトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

●韓國ノ屠獸規則違背者ニ對スル制裁 明治四十二年九月統令第二十四號

韓國ノ屠獸規則第一條及第二條ニ違背シタル者又ハ第六條ニ依ル停止命令ニ違背シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●警察犯處罰令 四十一年十月統令第四十四號

警察犯處罰令左ノ通相定ム

警察犯處罰令

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留ニ處ス

- 一 故ナク人ノ居住若ハ看守セサル邸宅、建造物及船舶内ニ潜伏シタル者

第八輯 警察

- 二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者
 - 三 一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者
 - 四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談、威迫ノ行爲ヲ爲シタル者
- 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 一 許可ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者
 - 二 許可ヲ得スシテ毒藥、劇藥ヲ販賣シタル者
 - 三 許可ヲ得スシテ火藥類其ノ他爆發スヘキ物品ヲ市街ニ於テ運搬シ又ハ貯藏シタル者
 - 四 許可ヲ得スシテ煙火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
 - 五 傳染病豫防ニ關シ公務員ノ命令ニ從ハサル者
 - 六 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者
 - 七 乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
 - 八 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者
 - 九 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者
 - 十 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
 - 十一 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者
 - 十二 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者
 - 十三 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者
 - 十四 祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
 - 十五 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬ヲ爲シタル者
 - 十六 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬ヲ爲シタル者
 - 十七 自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者

- 前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者
- 十八 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者
- 十九 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 二十 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
- 二十一 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二十二 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セズ混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 二十三 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者
- 二十四 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者
- 二十五 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 二十六 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 二十七 官職、位記、勳爵、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ借用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 二十八 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者
- 二十九 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
- 三十 河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 三十一 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 三十二 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者

- 三十三 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚漬若ハ撤去シタル者
 - 三十四 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者
 - 三十五 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者
 - 三十六 他人ノ田野、園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
 - 三十七 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
 - 三十八 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
 - 三十九 他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者
 - 四十 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚瀆シタル者
 - 四十一 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者
 - 四十二 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
 - 四十三 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者
 - 四十四 濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
 - 四十五 所有地外ヘ濫ニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
 - 四十六 許可ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者
 - 四十七 路上ニ於テ賭博ニ類スル行爲ヲ爲シタル者
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス
- 一 許可ヲ得スシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之カ保存ヲ爲シタル者
 - 二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、裸裎シ又ハ臂部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
 - 三 街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
 - 四 街路ニ於テ夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅シタル者
 - 五 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者
 - 六 許可ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
 - 七 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲ササル者
 - 八 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者
 - 九 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者
 - 十 開業ノ醫師、產婆故ナク病者又ハ妊婦、產婦ノ招キニ應セサル者
 - 十一 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
 - 十二 炮糞、洗滌、剝皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
 - 十三 健康ヲ害スヘキ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者
 - 十四 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ飲食物其ノ他ノ商品ヲ陳列シタル者
 - 十五 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之カ取除ノ義務ヲ怠リタル者
 - 十六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ之ヲ浚ハサル者
 - 十七 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
 - 十八 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ喉シ又ハ驚逸セシメタル者
 - 十九 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者
 - 二十 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
 - 二十一 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚漬シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣貸家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚漬シ若ハ撤去シタル者
 - 二十二 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
 - 二十三 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ之ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者

- 二十四 官ヨリ價格ヲ定メタル品物ヲ定價以上ニ販賣シタル者
- 二十五 渡船橋梁其ノ他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
- 二十六 渡船橋梁其ノ他通行錢ヲ拂フヘキ場所ニ於テ其ノ定價ヲ出サスシテ通行シタル者
- 二十七 許可ヲ得スシテ劇場其ノ他見世物場ヲ開キタル者
- 二十八 公園ノ規則ヲ犯シタル者
- 第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●韓國ニ於ケル犯罪即決令

四十二年十月
勅令第二百四十號

朕韓國ニ於ケル犯罪即決令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

韓國ニ於ケル犯罪即決令

- 第一條 統監府警視又ハ統監府警部ニシテ韓國ノ警察署長、分署長タル職務ヲ有スル者又ハ其ノ代理ヲ爲ス者ハ其ノ警察署又ハ分署ノ管轄區域内ニ於ケル左ノ犯罪ヲ即決スルコトヲ得
 - 一 拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ罪
 - 二 韓國法規ニ依リ管刑、拘留又ハ三十圓以下ノ罰金ノ刑ニ處スヘキ罪
- 第二條 即決ハ正式ノ裁判ヲ用キス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直ニ其ノ言渡ヲ爲スヘシ
被告人ヲ呼出スノ必要ナキトキ又ハ之ヲ呼出スモ出頭セサルトキハ直ニ其ノ言渡書ノ謄本ヲ本人又ハ其ノ住居ニ送達スルコトヲ得
- 第三條 即決ノ言渡ヲ受ケタル者之ニ服セサルトキハ管轄裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得

- 第四條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル官署ニ申立書ヲ差出スヘシ其ノ期間ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタル日ヨリ三日、同條第二項ノ場合ニ於テハ送達アリタル日ヨリ五日トス
前項ノ期間内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサルトキハ即決ノ言渡ハ確定シタルモノトス
- 第五條 前條ノ申立ヲ受ケタル官署ハ速ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄裁判所檢事ニ送致スヘシ
- 第六條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ第四條ニ定メタル期間内被告人ヲ留置スルコトヲ得但シ刑期ニ相當スル日數ヲ超ユルコトヲ得ス
科料又ハ罰金ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其ノ金額ヲ假納セシムヘシ若納メサルトキハ第四條ニ定メタル期間内被告人ヲ留置スルコトヲ得
- 前項留置ノ期間ハ一圓ヲ一日ニ折算シタル日數ヲ超ユルコトヲ得ス但シ一圓未滿ノ端數ハ一日ニ折算ス
- 第七條 前條第一項ノ留置期間ハ拘留ノ刑期ニ之ヲ通算シ同條第二項ノ留置期間ハ其ノ折算シタル金額ヲ以テ科料又ハ罰金ノ金額ニ算入ス
- 第八條 留置セラレタル者正式ノ裁判ヲ請求シ呼出狀ノ送達アリタルトキハ直ニ其ノ留置ヲ解クヘシ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●普通警察報告例

三十九年四月
統訓第七號

普通警察報告例左ノ通定ム

普通警察報告例

- 第一條 本例ハ警察ニ關シ理事官ノ報告スヘキ事項、期限及方法ヲ定ム
- 第二條 理事官ヨリ報告スヘキ事項ニシテ緊急ヲ要スル場合ニ於テハ警察署長又ハ警察分署長ヲシテ直接警

理事 應

務總長ニ報告セシムルコトヲ得

第三條 報告ハ之ヲ日報、月報、半年報及年報ノ四種トス

第四條 日報ハ毎日、月報ハ毎月、半年報ハ每半年、年報ハ毎年一回報告スルモノトシ日報ハ即日、月報ハ翌月五日、半年報ハ毎年七月十五日及翌年一月十五日、年報ハ翌年二月十五日迄ニ報告スヘシ

第五條 報告ハ直接口頭ヲ以テスルモノノ外凡テ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ緊急ヲ要スル事項ハ即時電信ヲ以テ報告スヘシ

第六條 報告スヘキ事項及其ノ期限概ネ左ノ如シ

(一) 日報

- 一 警察ニ關スル命令告示等
 - 二 傳染病流行ノ徵候
 - 三 傳染病院ノ開閉
 - 四 天變地異ニ因リ人畜ノ死傷、家屋田園ノ破壊、流失及其ノ他ノ異變
 - 五 十人以上並重要ノ關係アル家屋ノ火災及火災ノ爲死人アリタルトキ
 - 六 十人以上共犯シテ重罪ヲ犯セシト認ムル者ヲ逮捕シタルトキ
 - 七 新聞雜誌ノ發行廢刊
 - 八 警察特別賞與
 - 九 難破船
- (二) 月報
- 一 警察官ノ配置異動
 - 二 新聞紙雜誌發賣額布數
 - 三 人民保護ノ員數

- 四 傳染病流行ノ經過
- 五 屠獸數
- 六 牛乳搾取高
- 七 船舶出入數
- 八 沿岸航行船舶數
- 九 漁船出入數及其ノ乘組員數

(三) 半年報

- 一 帝國人民ノ戶數人口男女職業及府縣別
- 二 帝國人民ノ韓國内地ニ入込ミタル數並職業別
- 三 警察官ノ帝國人民ノ數ニ對スル比例
- 四 居留地及雜居地並其ノ附近ノ韓國人民ノ戶數人口職業別
- 五 帝國人民ト韓國人民トノ雜婚數
- 六 韓國人民ニシテ日本語ヲ解スル者ノ數
- 七 韓國人民ニシテ他國語ヲ解スル者ノ數
- 八 辯護士及理事官ノ許可ヲ受ケタル訴訟代理人又ハ辯護人ノ數
- 九 種痘數
- 十 檢煤數
- 十一 開業醫及產婆ノ數
- 十二 農業従事者及其ノ段別
- 十三 鑛業従事者及其ノ採取高
- 十四 製造會社ノ數及其ノ職工數

(四)年報

- 一 韓國人民ノ戶數人口男女別
- 二 外國人民ノ戶數及人口
- 三 犯罪數及其ノ逮捕數並裁判ノ結果
- 四 盜難數及其ノ檢舉數
- 五 違警罪犯及諸犯罪人員
- 六 監視人員
- 七 傳染病患者數及死亡數
- 八 傳染病豫防制遏ニ關スル經費額
- 九 出生死亡者數
- 十 中毒數
- 十一 精神病患者數
- 十二 火災度數及被害棟數
- 十三 消防組ノ組織
- 十四 變死棄兒ノ數
- 十五 自殺者ノ年齡及因由
- 十六 警察上死傷セシ人員
- 十七 警察上ノ褒賞及給助
- 十八 警察ノ取締ニ屬スル營業者ノ數及其ノ種別
- 十九 料理店及特別料理店並藝妓ノ數及其ノ種別
- 二十 巡查生活ノ情態

- 二十一 巡查教養ノ成績
- 二十二 領事裁判件數
- 二十三 非訟事件及登記事件數
- 二十四 在監人員
- 二十五 押送人員
- 二十六 在留禁止處分者數
- 二十七 保安規則ニ依リ住居ヲ定メ又ハ生業ヲ求ムルコトヲ命シタル者ノ數

●在韓國本邦人ニ對スル司法警察官執務規則 四十二年十月
統訓第三十四號

統監府檢事
統監府警視
統監府警部
韓國駐劄憲兵隊

在韓國本邦人ニ對スル司法警察官執務規則左ノ通定ム

在韓國本邦人ニ對スル司法警察官執務規則

第一章 總則

第一條 司法警察官ハ犯罪ノ搜查ヲ爲シ及現行犯ノ假豫審ヲ行フヲ以テ其ノ職務トス

第二條 司法警察官ハ搜查又ハ憲兵卒ヲ指揮シテ其ノ職務ヲ補助セシメ必要アルトキハ巡查ニ警部代理ヲ命シ司法警察事務ヲ執ラシムルコトヲ得

前項ニ依リ巡查ニ警部代理ヲ命シタルトキハ其ノ氏名ヲ警察署長ヨリ速ニ所轄地方裁判所檢事正及區裁判所檢事ニ通知スヘシ通知後異動アリタルトキ亦同シ但シ臨時代理ヲ命シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 司法警察官ハ各所屬官署ノ管轄區域内ニ於テ職務ヲ行フモノトス但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 司法警察官ハ其ノ職務ニ付共助スヘシ

第五條 司法警察官ノ作成スル文書ニシテ記録ニ編綴スルモノハ刑事訴訟法ノ規定ニ依ラサルモノト雖同法第二十條及第二十一條ノ規定ニ從フヘシ

第六條 被告人、證人其ノ他取調ヲ受クル者並又ハ啞ナルトキハ書面ヲ以テ問答ヲ爲シ若文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ用ウヘシ國語ニ通セサルトキ亦同シ

書面ヲ以テ問答ヲ爲シタルトキハ其ノ書面ヲ閱讀セシメ其ノ旨ヲ附記スヘシ又通事ニ依リ問答ヲ爲シタルトキハ通事ヲ作リ通事ヲシテ其ノ趣旨ヲ本人ニ告知セシメ其ノ旨ヲ附記シ通事ヲシテ共ニ署名捺印セシムヘシ

第七條 司法警察官書類ヲ受理シタルトキハ其ノ欄外ニ受理ノ年月日ヲ記載スヘシ

第八條 公務員ニ非サル者ヨリ提出スル書類ニシテ代書ニ係ルトキハ代書者ヲシテ其ノ代書ノ事由及其ノ書類ヲ本人ニ讀聞カセタルコトヲ附記セシメ之ニ連署セシムヘシ

第九條 司法警察官左記ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ所轄地方裁判所檢事正及事件所管廳ノ檢事ニ報告スヘシ(書式第一號)

- 一 刑法第二編第一章乃至第四章ノ罪
- 二 公務員、華族及從六位、勳六等、功六級以上ノ者及韓國官吏ニ應聘中ノ者ノ禁錮以上ニ該ルヘキ罪
- 三 通貨偽造及明治三十八年法律第六十六號ニ關スル無期又ハ短期一年以上ノ禁錮若ハ懲役ニ該ル罪
- 四 公印、公文書偽造ニ關スル無期又ハ短期一年以上ノ禁錮若ハ懲役ニ該ル罪
- 五 殺人ノ罪
- 六 保安規則第十二條第二項ノ罪
- 七 新聞紙規則第二十二條及第二十三條ノ罪

八 議員選舉ニ關スル罪

九 前各號ノ外公安ニ重大ナル關係アル犯罪

第十條 被告人拘留中又ハ護送途中逃走シタルトキハ速ニ所轄地方裁判所檢事正及事件所管廳ノ檢事並其ノ護送ヲ命シタル官吏及交付ヲ受クヘキ官吏ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第十一條 前二條ノ報告ヲ爲シタル後犯人ヲ逮捕シ又ハ犯人ノ誰タルニトヲ知リタルトキ若ハ捜査ノ續行ヲ要セザルモノト思料シタルトキハ速ニ前ニ報告シタル官吏ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第十二條 司法警察官ハ毎月取扱タル犯罪件數、檢舉件數及檢舉人員ニ付月表ヲ作り翌月十日迄ニ所轄地方裁判所檢事正ニ差出スヘシ(書式第二號)

第二章 捜査

第十三條 捜査ハ犯罪ノ證據ヲ蒐集シ犯人ヲ檢舉シ公訴ノ提起及實行ノ資料ヲ得ルヲ以テ目的トス

第十四條 捜査ヲ爲スニハ公力ヲ用ウヘカラス

第十五條 捜査ヲ爲スニハ左記ノ事項ニ注意スヘシ
一 被告人ノ氏名、年齢、身分、職業、住所、出生地及前科、檢事ノ起訴猶豫又ハ警察官ノ訓戒放免ヲ受ケタルコトノ有無

二 被告人ノ位記、勳章、功級、年金、恩給、從軍徽章ノ有無

三 被告人ノ性質、品行、生活狀態、資力及教育程度

四 犯罪ノ性質、方法、日時、場所及原因

五 被害者ノ氏名、年齢、職業及住所

六 被告人ト被害者トノ關係

七 被害ノ狀態及損害ノ價額

八 被告人ノ利益トナルヘキ事實

九 前各號ヲ證明スヘキ證憑

第十六條 變死者ノ死因ヲ發見スル爲必要アリト思料スルトキハ事件所管廳ノ檢事ノ許可ヲ受ケ死體ノ解剖ヲ爲スコトヲ得

第十七條 捜査上必要アリト認ムルトキハ被告人、證人又ハ其ノ他ノ者ヲ呼出シ若ハ其ノ所在ニ就キ陳述ヲ聽キ又ハ其ノ承諾ヲ得テ犯所其ノ他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

第十八條 前條ノ場合ニ於テ被告人又ハ其ノ他ノ者ノ供述ハ之ヲ錄取シ之ヲ本人ニ讀聞カセ共ニ署名捺印スヘシ若署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ(書式第三號)

其ノ陳述シタル事項簡單ナルカ又ハ本人ノ希望アルトキハ書面(手續書又ハ始末書)ヲ差出サシムルコトヲ得

第十九條 外國人ヨリ提出スル書面ハ成ルヘク譯文ヲ添附セシムヘシ

第二十條 捜査上必要アリト認ムルトキハ犯所其ノ他ノ場所ニ出張シ實況ヲ見分スルコトヲ得

前項ノ場合ニハ實況見分書ヲ作成シ署名捺印スヘシ(書式第四號)

第二十一條 犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ハ所有者又ハ占有者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ領置書及領置目錄ヲ作り之ヲ記錄ニ添附シ且領置目錄ノ寫ヲ差出人ニ交付スヘシ

第二十二條 捜査上鑑定ヲ必要トスルトキハ公力ヲ用キサル範圍内ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十三條 事件毎ニ被告人ノ戶籍寫及資産ノ概額、位記、勳章、功級、年金、恩給、從軍徽章ノ有無其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ取調ヘ其ノ事件ヲ送致シタル事件所管廳ニ回答スヘキ旨ヲ本籍地ノ市町村役場ニ照會シ其ノ旨ヲ送致書ニ附記スヘシ(書式第五號)

第二十四條 姦淫、親屬相盜、幼者誘拐等親屬關係若ハ年齢ニ因テ罪ノ成否又ハ刑ノ輕重ニ關係アル事件ニ付テハ特ニ其ノ點ニ注意シ取調ヲ爲スヘシ

第二十五條 禁錮以上ノ罪ニ該ルヘキ非現行犯人ニシテ逃走又ハ證據湮滅ノ虞アルトキハ事件送致ト共ニ令

狀ヲ請求スヘシ

時宜ニ因リ犯人ノ承諾ヲ得テ當該官署ニ同行スルコトヲ得緊急ナル場合ニ於テハ事件ノ要領ヲ報告シ令狀ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 殺人又ハ傷害事件ニ付テハ事件送致後ト雖創傷ノ經過ニ注意シ異狀ヲ來シタルトキハ醫師ノ診斷書又ハ被害者ノ始末書ヲ添ヘ事件所管廳ノ檢事ニ報告スヘシ

第三章 告訴、告發及自首

第二十七條 告訴、告發、自首其ノ他犯罪ノ申告ハ其ノ名稱ノ何タルヲ問ハス且捜査ヲ要スヘキモノナルト

否トニ拘ラス之ヲ受理シ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條 告訴、告發、自首其ノ他犯罪ノ申告ヲ爲ス者アルトキハ成ルヘク其ノ原由及第十五條、第二十

四條ニ掲ケタル事項ヲ明瞭ナラシムルニ注意スヘシ

第二十九條 口頭ヲ以テ告訴、告發又ハ自首ヲ爲ス者アルトキハ其ノ陳述ニ付調書ヲ作り本人ヲシテ署名捺

印セシムヘシ(書式第六號ノ一、二)

告訴、告發又ハ自首ノ書面ヲ受理シタル場合ニ於テ其ノ趣旨不明瞭ナルカ又ハ本人ノ意思ニ適合セスト思

料シタルトキハ其ノ趣旨ニ付陳述ヲ爲サシメ調書ヲ作り本人ヲシテ署名捺印セシムヘシ(書式第七號)

第三十條 他人ニ代リ告訴、告發又ハ自首ヲ爲ス者アルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出サシムヘシ但シ法定代理

人ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 前二條ノ規定ハ告訴、告發又ハ自首ニ付増減變更又ハ取下ノ申立アリタル場合ニ之ヲ準用ス

(書式第八號)

第三十二條 告訴、告發又ハ自首ノ書面ハ其ノ取下ノ申立アルモノ之ヲ還付セサルモノトス

第四章 假豫審

第三十三條 司法警察官罰金以上ノ刑ニ該ル現行犯、準現行犯ニシテ事件急速ヲ要スルモノト認メタルトキ

ハ其ノ旨ヲ事件所管廳ノ檢事ニ通知シテ犯所ニ臨檢シ假ニ豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 假豫審處分ニ付テハ刑事訴訟法第三編第三章第四節乃至第七節ノ規定ニ準據シテ之ヲ爲スヘシ

第三十五條 司法警察官前條ニ依リ犯所ニ臨檢シタルトキハ被告人不詳ナルトキト雖假豫審處分ヲ爲スヘシ

第三十六條 檢證ニ著手シタル後豫審判事又ハ檢事ノ臨檢ヲ必要ナリト思料スルトキハ其ノ旨事件所管廳ノ

檢事ニ急報シ指揮ヲ待ツヘシ但シ猶豫スヘカラサル處分ハ之ヲ續行スルコトヲ要ス

第三十七條 檢證ニ著手シタル場合ニ於テ豫審判事又ハ檢事自ラ其ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ速ニ之ヲ引

繼クヘシ

第三十八條 假豫審處分トシテ檢證、搜索、差押ヲ爲ストキト雖成ルヘク穩當ノ方法ヲ執リ止ムヲ得サル場

合ニ非サレハ公力ヲ用ツヘカラス

第三十九條 檢證、搜索、差押、訊問及鑑定ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ作り署名捺印スヘシ（書式第九號

乃至第十三號）

檢證、搜索、差押ノ處分ヲ爲スニハ二人以上ノ立會人アルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ立會人モ共ニ署名

捺印セシムヘシ

第四十條 差押ヲ爲シタル物件ハ散佚、毀損ヲ防ク爲認印又ハ封印ヲ爲シ且差押ヲ爲シタル年月日及事件名

ヲ記シテ其ノ物件ニ添附シ別ニ差押品目錄ヲ作り記錄ニ編綴スヘシ

第四十一條 司法警察官ハ假豫審處分ヲ爲ストキト雖證人及鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ爲サシメシテ之ヲ聽キ

且罰金、科料又ハ費用賠償ノ言渡ヲ爲スヘカラス

第四十二條 第三十四條及前第五條ノ規定ハ統監府裁判所司法事務取扱令第二十六條ニ依リ裁判所又ハ豫審

判事ヨリ檢證、搜索、差押、證人訊問及鑑定ヲ命セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第五章 事件送致

第四十三條 捜査ニ因リ事件ノ要領ヲ得タルトキハ拘留又ハ科料ニ該ルヘキ事件ハ即決裁判ヲ爲スヘキ官署

ニ、其ノ餘ノ事件ハ事件所管廳ノ檢事ニ送致スヘシ假豫審處分ヲ了リタルトキ亦同シ

第四十四條 被告事件ヲ送致スルニハ一件記錄ニ記錄目錄、意見書及送致書ヲ添へ且成ルヘク被告人ノ素行

調書ヲ添附スヘシ（書式第十四號乃至十七號）

第四十五條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ルヘキ被告事件ヲ送致スルニ當リ被告人所在

不明ナルトキハ成ルヘク人相書ヲ添附スヘシ（書式第十八號）

第四十六條 一件記錄ハ其ノ受理又ハ作成ノ順序ニ依リ編綴シ毎葉ニ丁數ヲ附シ其ノ表紙ニ被告人ノ拘束不

拘束ヲ記載スヘシ

第四十七條 數罪俱發、共犯其ノ他關聯シタル犯罪事件ノ記錄ヲ別冊トシテ送致スルトキハ各送致書ニ其ノ

關係事件ノ送致年月日、事件名及被告人ノ氏名ヲ附記シ若事件所管廳ヲ異ニスルトキハ一方ニハ其ノ證據

トナルヘキ書類ノ謄本ヲ添附スヘシ

第四十八條 被告事件輕微ニシテ處罰ノ實益ナシト思料シタルトキハ被告人ニ訓戒ヲ加ヘ事件ヲ送致セサル

コトヲ得但シ告訴又ハ公務員ノ告發ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ被告人ヲシテ成ルヘク贖物ノ返還、損害ノ賠償、謝罪等ノ方法ニ依リ被害者ニ満足ヲ與

ヘシムルコトニ注意シ若法禁物又ハ犯罪供用物件アルトキハ被告人ヲシテ任意ニ之ヲ拋棄セシメ廢棄其ノ

他適宜ノ處分ヲ爲スヘシ

第四十九條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ處分ノ事由、被告人ノ氏名、年齢、職業、住所、前科、起訴

猶豫又ハ訓戒放免ヲ受ケタルコトノ有無、素行及犯罪事實ノ概要ヲ事件所管廳ノ檢事ニ報告スヘシ（書式

第十九號）

第五十條 被告事件輕微ニシテ處罰ノ實益ナク起訴ヲ猶豫スヘキモノト思料スルトキハ意見書ニ其ノ旨ヲ記

載シ送致スヘシ

第五十一條 公判ニ提出スヘカラサル報告書、復命書ノ類ニハ祕密ノ二字ヲ記シ記錄ニ編綴セス親展書ト爲

シ之ヲ送付スヘシ

第五十二條 證據物件ヲ送付スルニハ物件ニ小札ヲ附シ之ニ被告人ノ氏名及差押調書又ハ領置書ニ記入シタル順次番號ヲ記載スヘシ若被告人ノ氏名不明ナルトキハ被差押人ノ氏名ヲ記載スヘシ

證書、書翰ノ類ハ前項ノ手續ヲ爲シ之ヲ記録ニ編綴セス別ニ封筒ニ入レ證據品ナル旨ヲ表記スヘシ

證據品ヲ記録ト共ニ送付セサルトキハ送致書ニ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第五十三條 證據物件ニシテ送付スルノ必要ナシト認メタルモノ又ハ運搬ニ不便ナルモノハ之ヲ保管シ又ハ適當ノ者ニ命シテ之ヲ保管セシメ差押調書又ハ領置書ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

前項ニ依リ物件ノ保管ヲ命シタルトキハ其ノ保管請書ヲ徵シ記録ニ添付スヘシ

第五十四條 證據物件ニシテ腐敗又ハ滅滅ノ虞アルモノハ賣却又ハ廢棄スルコトヲ得

前項ニ依リ賣却シタル物件ノ代金ハ之ヲ保管シ差押調書又ハ領置書ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

第五十五條 證據物件ニシテ送付スルノ必要ナク且沒收スヘカラサルモノト認ムルモノハ其ノ假下ヲ爲スコトヲ得贖物、贖物ト交換シタル物又贖金ヲ以テ購求シタル物被告人ノ手ニ現在スルトキハ協議返還ヲ爲サ

シムルモ妨ナシ

假下ヲ爲スニハ假下中善良ナル注意ヲ以テ其ノ物件ヲ保管シ一切ノ處分行爲ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ假下物件受領者ニ諭示シ且其ノ旨ヲ記載シタル假下請書ヲ差出サシメ若返還ヲ爲サシメタルトキハ連署又ハ各別ノ書面ヲ徵シ之ヲ記録ニ添附シ差押調書又ハ領置書ニ假下又ハ返還ノ旨ヲ記入スヘシ

第五十六條 證據物件ニシテ事件ニ關係ナキコト分明シタルトキハ之ヲ還付スヘシ

前項ニ依リ還付ノ手續ヲ爲シタルトキハ還付請書ヲ差出サシメ之ヲ記録ニ添附シ差押調書又ハ領置書ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

第五十七條 事件送致後其ノ事件ニ關スル書類又ハ物件ヲ送付スルニハ送付書ニ事件送致ノ年月日、事件名及被告人ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五十八條 被告事件送致後ト雖必要アルトキハ捜査ヲ續行シ證據ヲ得タルトキハ直ニ送付スヘシ

第六章 令狀執行及被告人逮捕

第五十九條 令狀ニ檢事ノ認印アルトキハ執行指揮書ノ添付ナシト雖之ヲ執行スヘシ

判事ヨリ其ノ出張先ニ於テ直接ニ交付シ又ハ他官廳ノ檢事ヨリ急速ヲ要スルモノトシテ直接ニ執行ヲ求メタル令狀ハ所轄檢事ノ指揮ヲ受ケタルモノト看做シ直ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ

第六十條 令狀ノ執行ヲ受クヘキ被告人ノ所在他ノ警察官署ノ管轄區域内ナリト雖同一地方裁判所内ナルトキハ其ノ所轄司法警察官ニ令狀ヲ送付シテ執行ノ手續ヲ求メ若被告人他ノ地方裁判所内ニ在ルトキハ其ノ旨ノ報告書ヲ添ヘ令狀ヲ返戻スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ直ニ令狀ヲ其ノ地ノ警察官署ニ送付シテ執行ヲ囑託シ又ハ巡查ヲシテ令狀ヲ帶行セシメ速ニ指揮ヲ爲シタル檢事ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第六十一條 拘引狀ヲ執行シタルトキハ速ニ指揮ヲ爲シタル檢事ニ令狀ト共ニ押送スヘシ若他官廳ノ檢事又ハ司法警察官ノ囑託ニ因ルトキハ速ニ其ノ令狀ヲ發シタル檢事ニ押送ノ手續ヲ爲スヘシ

第六十二條 拘留狀ヲ執行シタルトキハ指定ノ監獄又ハ留置場ニ押送シタル後其ノ令狀ハ指揮ヲ爲シタル檢事ニ差出スヘシ他官廳ノ檢事又ハ司法警察官ノ囑託ニ因ルトキ亦之ニ準ス

第六十三條 逮捕狀ヲ執行シタルトキハ逮捕狀ト共ニ所轄檢事ニ押送シ若他官廳ノ檢事又ハ司法警察官ノ囑託ニ因ルトキハ速ニ逮捕狀ヲ發シタル檢事ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第六十四條 巡查、憲兵卒其ノ他司法警察官以外ノ者現行犯、準現行犯人ヲ逮捕引致シ來リタルトキハ犯罪發覺ノ原因、逮捕ノ日時、場所其ノ他必要ノ狀況ヲ申立テシメ逮捕告發調書(被害者引致ノトキハ告訴調書)ヲ作成シ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印スヘシ(書式第二十號)引致ト共ニ逮捕始末書ヲ差出シタルトキハ其ノ相違ナキヤ否ヤヲ取調ヘ其ノ旨ヲ記載シ署名捺印シテ逮捕告發(告訴)調書ニ代フルコトヲ得(書式第二十一號)

第六十五條 逮捕シタル被告人ト雖事件起訴スヘカラス又ハ罰金以下ノ刑ニ該當シ若ハ證據湮滅又ハ逃走ノ虞ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ

第七章 帳簿

第六十六條 警察官署ニハ左ノ帳簿ヲ備置クヘシ

- 一 犯罪捜査簿(第二十二號書式)
 - 二 犯罪事件簿(第二十三號書式)
 - 三 證據品原簿(第二十四號書式)
- 第六十七條 司法警察官起訴猶豫人名票、受刑人名票又ハ逮捕狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ累年編冊ト爲シ目錄ヲ附スヘシ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
書式ハ之ヲ略ス

●韓國人ニ對スル司法警察事務取扱方

四十二年十月
統制第三十號

- 統監府檢事
- 統監府警視
- 統監府警部
- 韓國駐劄憲兵隊

韓國人ニ對スル司法警察事務ハ韓國司法警察官執務規程ニ準シ之ヲ取扱フヘシ

●外國人ニ關スル司法警察官執務心得

四十二年十月
統制第二十九號

- 統監府檢事
- 統監府警視

- 統監府警部
- 韓國駐劄憲兵隊

司法警察官外國人ニ關スル執務心得

- 第一條 外國人ニ關スル司法警察事務ニ付テハ總テ當該地方裁判所檢事正ノ指揮監督ヲ受クヘシ
- 第二條 外國人ノ犯罪又ハ外國人ニ對スル犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ之ヲ當該地方裁判所檢事正ニ報告スヘシ
- 第三條 外國人ノ現行犯ヲ認メタル場合ニ於テハ其ノ犯人ヲ當該外國官憲ニ引渡ノ手續ヲ爲スヘシ但シ輕微ナル犯罪ト認メタル場合ニ於テハ犯人ノ國籍、住所及姓名ヲ聞糺スニ止メ直ニ之ヲ當該地方裁判所檢事正ニ報告スヘシ
- 第四條 犯罪ノ嫌疑アル外國人ニ對シテハ當該地方裁判所檢事正ノ指揮ヲ受クルニ非サレハ逮捕、訊問其ノ他強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス
- 第五條 日本人又ハ韓國人ニシテ罪ヲ犯シタル者外國官署、外國艦船(ボートヲ含ム)又ハ外國人ノ邸宅内ニ在ル場合ニ於テ事件急速ヲ要スルトキハ當該外國官憲、艦長、船長又ハ家主ノ同意ヲ得テ之ヲ逮捕シ速ニ其ノ旨ヲ當該地方裁判所檢事正ニ報告スヘシ
- 前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキ若ハ事件急速ヲ要セサルモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ當該地方裁判所檢事正ニ報告スヘシ
- 前二項ノ規定ハ第一項ニ記載シタル場所ニ就キ檢證、家宅搜索、物件差押又ハ其ノ他ノ處分ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
- 第六條 外國官憲、外國艦船又ハ外國人ノ使用人タル日本人又ハ韓國人ニシテ罪ヲ犯シタル者ヲ逮捕シタルトキハ速ニ當該地方裁判所檢事正ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ
- 第七條 本令ニ依リ地方裁判所檢事正ニ報告ヲ爲ストキハ同時ニ當該理事官ニ報告スヘシ

第九輯 宗教

第九輯 宗教

● 宗教ノ宣布ニ關スル規則

三十九年十一月
統令第四十五號

宗教ノ宣布ニ關スル規則左ノ通定ム

宗教ノ宣布ニ關スル規則

第一條 帝國ニ於ケル神道佛教其ノ他宗教ニ屬スル教宗派ニシテ布教ニ從事セムトスルトキハ當該管長又ハ之ニ準スヘキ者韓國ニ於ケル管理者ヲ撰定シ履歷書ヲ添ヘ左ノ事項ヲ具シ統監ノ認可ヲ受クヘシ

一 布教ノ方法

二 布教者ノ監督方法

第二條 前條ノ場合ヲ除クノ外帝國臣民ニシテ宗教ノ宣布ニ從事セムトスルトキハ宗教ノ名稱及布教ノ方法ニ關スル事項ヲ具シ履歷書ヲ添ヘ所轄理事官ヲ經テ統監ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 宗教ノ用ニ供スル爲寺院、堂宇、會堂、說教所又ハ講義所ノ類ヲ設立セムトスルトキハ教宗派ノ管理者又ハ前條ノ布教者ハ左ノ事項ヲ具シ其ノ所在地所轄ノ理事官ノ認可ヲ受クヘシ

一 名稱及所在地

二 宗教ノ名稱

三 管理及維持方法

第四條 教宗派ノ管理者又ハ第二條ノ布教者其ノ他帝國臣民ニシテ韓國寺院ノ管理ノ委囑ニ應セムトスルトキハ必要ナル書類ヲ添ヘ其ノ寺院所在地ノ所轄理事官ヲ經テ統監ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 前各條ノ認可事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ認可ヲ受クヘシ

第六條 教宗派ノ管理者又ハ第二條ノ布教者ハ所屬布教者ノ氏名及資格ヲ所轄理事官ニ届出ツヘシ其ノ布教

者ニ異動アリタルトキ亦同シ

附 則

第七條 本則ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 本則施行ノ際現ニ布教ニ従事シ又ハ第三條若ハ第四條ノ規定ニ該當スルモノハ本則施行後三箇月以

内ニ各條ノ認可事項ヲ届出ツヘシ

(第二條ニ依ル申請書雛形)

宣教認可申請書

今般韓國ニ於テ何々(宗教ノ名稱)ノ宣布ニ従事致度候間御認可相成度別紙履歷書相添左記事項ヲ具シ此段申
請候也

年 月 日

原籍、身分、職業

現住所

氏 名 印

統 監 宛

記

一 宗教ノ名稱

神道ニ在リテハ何教何派等

佛教ニ在リテハ何宗何派等

耶蘇教ニ在リテハ何教何派何會等

右他ト明ニ區別シ得ラルル様詳細ニ其ノ名稱ヲ記スヘシ

二 布教ノ方法

イ 布教ハ在留帝國臣民又ハ韓國人又ハ兩國民ニ對シテ之ヲ爲スヤヲ明記スヘシ

ロ 布教ノ機關トシテ寺院、會堂、說教所、講義所、附屬學校、教會、講社等ヲ設クルモノニアリテハ之

ニ關スル事項ヲ詳記シ其ノ規則類ヲ添附スヘシ

巡回布教又ハ一定ノ場所ヲ定メスシテ布教スル者ハ其ノ旨ヲ明記スヘシ

講義、說教以外ノ方法例ヘハ通信傳道其ノ他印刷物ノ配布等ノ如キ方法ニ依リテ布教スル者ハ其ノ方

法ヲ明記スヘシ

ハ 布教ニ要スル費用ノ財源及經理方法

ニ 布教者ノ監督賞罰ニ關スル事項

ホ 布教ノ狀況調査ノ方法

ヘ 信徒ニ證票ヲ交附スル場合ニハ其ノ雛形ヲ添附シ其ノ取締方法ヲ記スヘシ

(別紙履歷書雛形)

履 歷 書

原籍、身分、職業

現住所

氏 名

年 齡

一 學業

二 教派又ハ官衙ニ於ケル任免事項

三 賞罰

右ノ通相違無之候也

第九輯 宗教

年 月 日

氏 名 印

七〇〇

(第三條ニ依ル認可申請書雛形)

何々設立認可申請書

今般布教ノ爲何々設立致度候間御認可相成度左記事項ヲ具シ此段申請候也

原籍、身分、職業
現住所

何々教宗派管理者氏名 印
又ハ 氏 名 印

何々理事廳理事官宛

記

一 名稱及所在地

何々寺院又ハ何々會堂等

何道何府郡何洞面等

二 宗教ノ名稱

宣教認可申請ノ場合ニ同シ

三 管理及維持方法

特ニ管理擔當者ヲ定メタルトキハ其ノ氏名

法人組織ナルトキハ之ニ關スル事項

設立費及維持費ノ財源及維持ニ關スル事項ヲ詳記スヘシ

(第四條ニ依ル認可申請書雛形)

韓國寺院管理認可申請書

今般韓國何々寺院(又ハ何々)管理ノ委嘱ニ應シ度候間御認可相成度別紙契約書相添此段申請候也

年 月 日

原籍、身分、職業
現住所

何々教宗派管理者氏名 印
又ハ 氏 名 印

統 監 宛

契約書中ニハ左ノ事項ヲ明記スヘシ

一 寺院ノ名稱、所在地及敷地建物

教宗派ノ名稱ヲ附記スヘシ

二 寺院所屬ノ財産

寺院所屬ノ財産タルコトヲ證明シ得ヘキ書類アラハ其ノ寫ヲ添附スヘシ

三 委託ノ事由

四 委託期間

五 受託ニ對スル報酬ノ有無

六 寺院及寺院所屬財産管理ニ關スル權限

寺院及所屬財産維持ニ關スル事項ヲ附記スヘシ

七 其ノ他契約ノ内容タルヘキ事項

例ヘハ寺院内ニ同居シテ共同布教ニ従事スル等

(第六條ニ依ル届書雛形)
布教者届

所屬布教者ノ氏名及資格別記ノ通ニ有之候此段及御届候也
年 月 日

現住所

何々教宗派管理者氏名 印
又ハ 氏 名 印

何々理事廳理事官宛

氏	名	資	格	布	教	所
何	某	何	々	何道何府郡何洞面何々		

(第六條ニ依ルル届書雛形)

布教者届

所屬布教者ノ氏名及資格別記ノ通ニ有之候此段及御届書也

年 月 日

現住所

何々教宗派管理者氏名 印
又 氏 名 印

何々理事應理事官宛

氏 名	資 格	所
何 某 何	格 布	教 所
	々	何道何府郡何洞面何々

第十輯 民事

第十輯 民事

●官廳民事訴訟上國ノ代表ニ關スル制

三十九年七月
勅令第八十四號

朕統監府及所屬官署ノ民事訴訟ニ關シ國ヲ代表スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 統監府ハ其ノ所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

第二條 統監ハ統監府令ヲ以テ所屬官署中其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得

第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲ス者ハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス

●民事訴訟上國ヲ代表スヘキ官廳

三十九年八月
勅令第二十四號

改正 四一年
勅令三二號 四二年
四〇號

本府所屬官署ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル件左ノ通定ム

理事廳、統監府鐵道管理局、統監府通信管理局、統監府營林廠、統監府特許局、統監府司法廳、統監府裁判所、統監府裁判所檢事局及統監府監獄ハ各其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

●相續人曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財産ノ引渡ニ

關スル制

明治三十三年十二月
勅令第四百九號

朕相續人曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財産ノ引渡ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
相續人曠缺ノ爲國庫ニ歸屬シタル財産ハ管理人ヨリ遲滯ナク被相續人ノ住所ヲ管轄スル地方行政官廳ニ引渡スヘシ但シ外國ニ在テハ領事又ハ貿易事務官ニ引渡スヘシ

●政府ノ債務ニ對シ差押命令發行方二十六年十二月
勅令第二百六十二號

明治二十四年勅令第五十五號左ノ通改正ス

第一條 政府ヲ第三債務者トシテ發スル差押命令ハ左ノ二項ニ掲クルモノノ外仕拂命令官ニ宛テ發スルモノトス

仕拂命令官既ニ現金前渡ノ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ於テハ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ向テ差押命令ヲ發スルモノトス但記名公債元利ニ對スル差押命令ハ公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ向テ發スルモノトス

預金、保管金、供託金ニ對スル差押命令ハ中央金庫ニ係ルモノハ金庫出納役、本支金庫ニ係ルモノハ關係ノ金庫出納役代理人ニ向テ發スルモノトス

第二條 繼續收入ノ債權差押ノ場合ニ於テ關係官廳又ハ金庫ニ變更アルトキハ甲官吏又ハ甲金庫ノ受ケタル差押命令ハ乙官吏又ハ乙金庫ニ於テ之ヲ承繼スルモノトス

第三條 差押債權者差押命令送達ノ通知ヲ受ケタルトキ緊急ノ場合ニ於テハ仕拂ヲ執行スヘキ金庫ニ向ヒ假リニ仕拂ノ停止ヲ求ムルコトヲ得

第四條 仕拂命令、仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書及現金引出切符ヲ政府ノ債權者ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ當該仕拂命令官又ハ現金前渡ヲ受ケタル當該官吏ハ速カニ金庫ニ向テ差押金額ノ仕拂ヲ停止スヘシ

第五條 差押ヘラレタル金額ヲ裁判所ノ命令ニ依リ差押債權者ニ仕拂フヲ要スルトキハ當該仕拂命令官、現金前渡ヲ受ケタル當該官吏、銀行又ハ金庫ニ於テ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 配當要求ノ送達又ハ民事訴訟法第六百七條ノ命令ヲ受ケタル場合ニ於テハ當該仕拂命令官、現金前渡ヲ受ケタル當該官吏、銀行又ハ金庫ニ於テ供託ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 差押金額ノ仕拂停止、仕拂執行又ハ供託ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第八條 假差押命令ノ場合ニ於テハ本令ヲ準用ス

附 則

第九條 本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

第十一輯 刑事 監獄

第十一輯 刑事 監獄

●刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル制 四十二年五月 勅令第二百一十七號

朕刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑法施行法中他ノ法律ニ關スル規定ハ刑法施行前ニ公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第百五十五號ハ之ヲ廢止ス

●印紙犯罪處罰法ニ依ル官沒ニ關スル制 四十二年五月 統令第十二號

印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ハ理事官ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

(參照)

●印紙犯罪處罰法 四十二年四月 法律第三十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル印紙犯罪處罰法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙犯罪處罰法

第一條 行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス行使ノ目的ヲ以テ印紙ノ消印ヲ除去シタル者亦同シ

第二條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章若ハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ、輸入シ若ハ移入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三條 帝國政府ノ發行スル印紙其ノ他印紙金額ヲ表彰スヘキ證券ヲ再ヒ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第十一輯 刑事、監獄

第五條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

刑法施行法第二十五條第一項第二號及第二十六條第十一號ハ之ヲ削ル

●囚人及被告人護送規則

四十二年十一月
統令第五十一號

囚人及被告人護送規則左ノ通定ム

囚人及被告人護送規則

第一條 囚人及被告人ノ護送ハ警察官吏ヲシテ之ヲ行ハシム但シ特ニ必要アル場合ニ於テハ憲兵下士卒ヲシテ行ハシムルコトヲ得

監獄間ニ於ケル囚人ノ護送ハ看守長、看守ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第二條 護送ハ總テ被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ直送スヘキモノトス但シ時宜ニ依リ沿道警察官署ノ遞傳ニ付スルコトヲ得

第三條 護送ヲ爲ストキハ發送官署ハ別紙様式ノ護送狀ヲ作り必要ノ書類ヲ添ヘ被護送者ト共ニ護送官吏ニ交付スヘシ但シ直送ノ方法ニ依リ囚人ノ監獄間ノ護送ヲ爲ス場合ニ於テハ身分帳其ノ他ノ書類ヲ以テ護送狀ニ代フルコトヲ得

第四條 發送官署ハ豫メ被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ其ノ氏名、發送ノ日時、護送ノ事由及方法ヲ通報スヘシ

第五條 被護送者ノ所持スル金品ハ左ノ例ニ依リ之ヲ取扱フ

一 金錢ハ發送官署ヨリ被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ之ヲ直送ス但シ金額五圓ニ滿タサルトキ、即日ニ護送ヲ終了スヘキトキ又ハ被告人ニ屬スル金錢ニシテ本人ノ請求アルトキハ護送官吏ニ依リ託送スルコトヲ得

二 物品ハ護送官吏ニ依リ之ヲ託送ス但シ危險ノ虞アル物品又ハ護送官吏ノ携帶ニ適セサル物品ハ發送官署ヨリ被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ直送スルコトヲ得

送致中ノ金品ハ護送官吏ニ依リ託送スル場合ニ於テハ護送官署ノ保管ニ屬シ其ノ他ノ場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス

第六條 護送ハ日出前日沒後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ汽車、汽船ニ依ル場合若ハ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 被護送者ハ汽車、汽船中ニ在ル場合ノ外警察官署ニ宿泊セシム但シ囚人及拘留狀ニ依リ拘留スヘキ被告人ハ監獄所在地ニ於テハ監獄ニ宿泊セシムルコトヲ得

警察官署又ハ監獄ニ宿泊セシメ難キトキハ他ニ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第八條 被告人護送ノ場合ニ於テハ監獄ノ規定ニ從ヒ護送中ニ必要ナル物品又ハ飲食物ノ購求若ハ差入ヲ許スコトヲ得

前項ニ依リ購求シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ證認書ヲ徴スヘシ

第九條 護送中逃走者アルトキハ護送官吏ハ直ニ其ノ地ノ警察官吏、憲兵及附近ノ警察官署並護送官署ニ通報シ護送官署ハ之ヲ發送官署及被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ書類及金品ハ之ヲ發送官署ニ返付ス

第十條 護送中護送者疾病ニ罹リタルトキハ相當ノ手當ヲ加ヘ若シ護送ヲ繼續スヘカラサルモノト認メタルトキハ被護送者ヲ書類及金品ト共ニ附近ノ警察官署ニ交付スヘシ但シ第七條第一項但書ニ該當スル者ニ付テハ之ヲ附近ノ監獄ニ交付スルコトヲ得

前項ニ依リ交付ヲ受ケタル官署ハ直ニ疾病ノ狀況ヲ發送官署及被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ通報スヘシ疾病治癒シテ更ニ護送ニ付シタルトキ亦同シ

第十一條 護送中護送者死亡シタルトキハ其ノ死體ヲ書類及金品ト共ニ附近ノ警察官署ニ交付スヘシ

汽車、汽船中ニ於テ死亡シタルトキハ其ノ死體ハ最初ノ停車地又ハ著船地ノ警察官署ニ交付スヘシ但シ已ムヲ得サル場合ニ於テハ其ノ他ノ停車地又ハ著船地ノ警察官署ニ交付スルコトヲ得

死體ノ交付ヲ受ケタル警察官署ハ發送官署及被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署並本人ノ住所地ヲ管轄スル警察官署ニ死亡ノ日時、原因等ヲ通報シ護送ニ關スル書類ハ之ヲ發送官署ニ返付スヘシ

死亡後二十四時間内ニ交付ヲ受クル者ナキトキハ死體ハ假リニ之ヲ埋葬シ遺留ノ金品ハ之ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十二條 護送官吏ノ旅費及被護送者ニ要スル護送ノ費用ハ護送官署ノ負擔トス但シ被護送者ヲ監獄又ハ警察官署ニ宿泊セシメタル場合ニ於ケル費用ハ其ノ監獄又ハ警察官署ノ負擔トス

第十條及第十一條ノ場合ニ於ケル費用ハ各其ノ交付ヲ受ケタル官署ノ負擔トス

第十三條 被護送者ヲ監獄又ハ警察官署以外ニ宿泊若ハ飲食セシメタル場合ニ於テハ其ノ費用ハ實費額ニ依ル但シ宿泊ノ費用ハ一夜金三十錢、飲食ノ費用ハ一回金十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

附則
本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

護送狀

氏名	本籍地	住所	身分	職業
及	氏名	及	及	及
年齢				
罪名				
刑名				
被告事件				
共犯者				
氏名				

相	體格	髮眉	鬚髯	額
丈	耳	目	口	齒
腮	容貌	顏色	文身	特徵
鼻				

本人ハ何何ノ事由ニ依リ何官署ニ交付スルカ爲左記ノ書類、金錢及物品ト共ニ及引渡候條護送方御取計相成度候也

年 月 日

發送官署

書類	本欄ニハ本書ニ添附ノ書類ノ名稱、通數(若ハ括數)ヲ記載ス
錢金	本欄ニハ護送官吏ニ託送ノ金錢ノ保管高仕拂高現殘高仕拂ノ月日及事由ヲ記載ス
物品	本欄ニハ護送官吏ニ託送ノ物品ノ名稱、員數、護送中ニ生シタル物品ノ増減ニ關スル事由等ヲ記載ス
護送官署名及主任官吏ノ認印	發送又ハ到着日時
	護送ノ方法及注意スヘキ事項
	被護送者ノ身體ノ狀況
	備考

本欄ニハ物品購入ノ許可、逃走、疾病ノ死亡其ノ他ノ事故ヲ記載ス

● 刑ノ執行猶豫ニ關スル取扱規程

四十二年十一月 統制第三十一號